

---

# LIFE LIGHT LOVE

---

## 2023年度 宗教活動報告書

Christian Activities of TOHOKU GAKUIN

第5号



新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。

そうすれば、両方とも長もちする。

マタイによる福音書 9章17節

学 校 法 人 東 北 学 院  
東 北 学 院 大 学  
東 北 学 院 中 学 校 ・ 高 等 学 校  
東 北 学 院 榴 ヶ 岡 高 等 学 校  
東 北 学 院 幼 稚 園

東北学院宗教センター



## ポスト・コロナ時代のキリスト教学校

東北学院院長・学長（宗教センター所長）

大西 晴樹



キリスト教学校教育同盟では、各校の後継者養成についての議論が活発化しているが、われわれの足元であり、後継者の源泉をなす東北学院の教育現場の振り返りも必要である。

私は、キリスト教学校の必要条件は以下の三つであると考えている。第一はキャンパスの内部で礼拝が行われていること。明治政府が「訓令第十二号」によってキリスト教学校の弱体化を意図したとき、学内礼拝の遵守はキリスト教学校であることの試金石となった。上級学校へ進学できるようにと、礼拝を辞めてキリスト教学校を返上した学校、学外の施設である寮などで細々と礼拝を守った学校など『同盟百年史』は先人の苦勞を伝えている。第二は、「聖書科」、「キリスト教学」が教育課程の必修科目とされていることである。戦後「聖書科」は、「道徳」の代替をすることができるとの文部省見解のもとに進んできたが、「道徳」が必修化された折に、「聖書科」の位置付けについて議論が交わされたことは記憶に新しい。第三は、読書会であれ、聖歌隊であれ「キリストの香りを放つ課外活動」が活発に行われていることである。これについては、受験競争の重圧、サークル活動の衰退につれて、各設置校は苦勞を重ねている。

そして三年余り続いたコロナ禍である。東北学院大学は、礼拝出席数において全国で一、二位を誇る大学である。私が着任したコロナ前の2019年度には延べ八万人の学生が礼拝に出席していた。礼拝出席者の少ないことを嘆いている東京のキリスト教大学からすれば驚くべき人数である。ところが、コロナ禍が収束し、対面での礼拝が再開された2023年度は二万四千人に減少した。本書 LIFE LIGHT LOVE に掲載されているように、各設置校の説教者は心をこめて準備をし、教職員も礼拝への出席を勧めている。それでも、出席する機会を遠隔授業によって妨げられた上級生にとって、対面での礼拝は余りにも敷居が高いのである。復旧にはしばらく時間がかかるであろう。

反面、嬉しい出来事も起こっている。東北学院はこれまで各設置校を架橋する法人の宗教センターをもたなかった。コロナ禍と同時に立ち上げた宗教センターが機能し始めてきた。宗教センター主催のTGCF（東北学院クリスチャン・フェローシップ）の音楽礼拝や英語活動には毎回、三〇人を越える学生が自主的に参加している。彼らの賛美の声はまだ弱いが、SBNR（Spiritual but not Religious）時代の学生たちの想いに耳を傾けることから、ポスト・コロナの時代が始まるのではないかと考えている。

# 目次

## 巻頭言

ポスト・コロナ時代のキリスト教学校

東北学院院長・学長（宗教センター所長）大西 晴樹…………… 1

## 2023年度 宗教活動報告

1) 法人事務局	
・活動報告……………	3
2) 宗教センター	
・活動報告……………	7
・TGCF活動まとめ	宗教センターチャプレン 佐藤 由子…………… 12
・ランカスター神学校との国際シンポジウム・講演会報告	宗教センター主任 原田 浩司…………… 15
3) 大学	
・活動報告……………	17
・第67回教職員修養会報告	
主題講演『キリスト教学校の存在意味―“Life Light Love”を生きる』	
	学校法人関東学院 学院長 松田 和憲…………… 26
発題1『東北学院と仙台教会』	
	日本基督教団仙台東一番丁教会 牧師 瀬谷 寛…………… 35
発題2『キリスト教教育～東北学院榴ヶ丘高校の実践例～』	
	東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順…………… 39
発題3『東北学院宗教センターの発足とその活動』	
	宗教センター主任（大学宗教部長）原田 浩司…………… 44
朝 拝「『山上の説教』から学ぶ」	
	学校法人関東学院 学院長 松田 和憲…………… 52
第67回教職員修養会総括	大学宗教部長 原田 浩司…………… 55
・2023年度 宗教協議会開会礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」	
	大学宗教部長 原田 浩司…………… 56
・2023年度 東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」	
	大学宗教部長 原田 浩司…………… 58
4) 中学校・高等学校	
・活動報告……………	61
・2023年度高3学年卒業説教「犠牲と奉仕～最後の学院生」	
	東北学院中学校・高等学校 宗教主任 松井 浩樹…………… 65
5) 榴ヶ岡高等学校	
・活動報告……………	67
・年間聖句について「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」	
	（ヨハネによる福音書8章32節）
	東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順…………… 72
6) 幼稚園	
・活動報告……………	73
・幼稚園クリスマスコンサート	東北学院幼稚園 園長 島内久美子…………… 77

2023年度

法人事務局 宗教活動報告



## 2023年度 法人事務局 宗教活動報告

### 1. 創立137周年記念式典

#### (1) 創立記念式

日 時 2023年5月15日(月) 9時30分  
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂  
司 会 齋藤信二法人事務局長  
参加者 190名(院内関係者のみ)

#### (2) 校祖墓前礼拝

日 時 2023年5月15日(月) 11時00分  
場 所 北山キリスト教墓地  
参加者 40名

### 2. 第22回東北学院ホームカミングデー記念式礼拝

日 時 2023年9月16日(土) 13時00分～13時15分  
場 所 五橋キャンパス押川記念館押川記念ホール  
司 式 原田浩司宗教部長  
参加者 205名

### 3. 第74回公開東北学院クリスマス

日 時 2023年12月15日(金) 18時30分  
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂  
司 式 原田浩司宗教部長  
説教者 荒木聡フェリス女学院中学校・高等学校教諭  
説教題 『あなたは、神から恵みをいただいた』  
参加者 375名

### 4. 東北学院職員クリスマス

#### (1) 礼 拝

日 時 2023年12月22日(金) 18時30分～19時45分  
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂  
司式説教 原田浩司宗教部長  
説教題 『光は暗闇の中で輝いている』  
参加者 159名

## 5. 学校法人東北学院宗教協議会

### (1) 第79回（メール審議）

期 間 2023年8月1日（火）～8月16日（水）  
審議事項 第77回学校法人東北学院宗教協議会議事録の修正について

### (2) 第80回

日 時 2023年10月3日（火）14時30分  
場 所 土樋キャンパス8号館第3・第4会議室

### (3) 第81回

日 時 2024年3月8日（金）14時30分  
場 所 土樋キャンパス5号館第1・第2会議室

## ◎キリスト教学校教育同盟関係

### 1. 東北・北海道地区協議会総会

日 時 2023年5月19日（金）14時30分～16時02分  
場 所 Zoomによるオンライン開催  
出席者 原田善教理事長、大西晴樹院長・学長（代表理事）、原田浩司宗教部長、帆足直治中学校・高等学校校長、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任、工藤彩絵子（事務局）

### 2. 一般社団法人キリスト教学校教育同盟第111回定時総会

日 時 2023年6月2日（金）10時00分～3日（土）12時50分  
場 所 兵庫県神戸市（八代学院）オンライン併用開催  
参加者 対面参加：大西晴樹院長・学長、帆足直治中学校・高等学校校長、松井浩樹中学校・高等学校宗教主任、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任  
オンライン参加：原田浩司宗教部長、野村信宗教センターチャプレン、工藤彩絵子庶務課係長（東北・北海道地区事務局）

### 3. 後継者養成部会東北・北海道地区キリスト教学校教職員志願者ガイダンス

日 時 2023年6月22日（木）15時00分～16時30分  
場 所 五橋キャンパス講義棟6階 L307教室  
参加者 原田浩司宗教部長、野村信宗教センターチャプレン、杉浦千裕庶務課係長、工藤彩絵子庶務課係長（事務局）

#### 4. 第67回事務職員夏期学校

日 時 2023年7月22日(土)14時00分～24日(月)12時30分  
場 所 静岡県御殿場(御殿場・YMCA東山荘)  
参加者 松村七海、越前千菜、齋藤杏華、中田裕輔(実行委員)  
※新採用職員研修として位置づけ

#### 5. 第8回全国災害支援連絡会議

日 時 2023年8月8日(火)14時00分～9日(水)18時00分  
場 所 熊本県熊本市 台風によりオンライン形式に変更(フィールドワークは決行)  
参加者 西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任(実行委員)

#### 6. 第13回中堅事務職員リトリート

日 時 2023年8月23日(水)13時00分～24日(木)15時00分  
場 所 京都府京都市(同志社大学今出川キャンパス)  
参加者 杉浦千裕庶務課係長、森谷徹内部監査室長(実行委員)

#### 7. 第9回全国事務局長・事務長会議

日 時 2023年9月1日(金)13時00分～2日(土)12時00分  
場 所 東北学院大学五橋キャンパス  
参加者 大西晴樹院長・学長(会場校挨拶)、齋藤信二法人事務局長

#### 8. 2023年度東北・北海道地区教育研究集会大学部会

日 時 2023年8月24日(木)9時00分～16時40分  
場 所 北海道札幌市(ホテルエミシア札幌)  
当番校 北星学園大学  
参加者 原田善教理事長、大西晴樹院長・学長(地区代表理事)、千葉智則副学長(総務担当)、福野光輝人間科学部長、原田浩司宗教部長(同盟教研全国委員)

#### 9. 第8回東北・北海道地区教育研究集会新任教師研修会

日 時 2023年9月4日(月)9時30分～15時00分  
場 所 山形県山形市(山形学院高等学校)  
当番校 山形学院高等学校  
参加者 一戸柚舞榴ヶ岡高等学校教諭、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任(教研全国委員)

**10. 第3回キリスト教活動担当事務職員研修会**

日 時 2023年9月8日（金）12時30分～17時00分

場 所 東京都港区（明治学院大学）

参加者 多田夏海総務課員（実行委員）

**11. 第8回本部・地区事務局担当者会議**

日 時 2023年9月30日（土）13時00分～17時00分

場 所 東京都新宿区西早稲田（同盟事務局）Zoomによるオンライン併用開催

参加者 オンライン参加：工藤彩絵子庶務課係長（事務局）

**12. 東北・北海道地区教育研究集集中高部会（第65回中高研究集会と合同開催）**

日 時 2023年10月26日（木）13時20分～27日（金）16時15分

場 所 北海道札幌市（ホテルモントレエーデルホフ札幌及び北星学園女子中学高等学校）

当番校 北星学園女子中学高等学校

参加者 佐藤周榴ヶ岡高等学校副校長、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任

**13. 第65回学校代表者協議会**

日 時 2023年11月3日（金・祝）17時40分～4日（土）16時30分

場 所 東京都東久留米市（自由学園）オンライン併用開催

参加者 対面参加：原田善教理事長、大西晴樹院長・学長

オンライン参加：河本和文榴ヶ岡高等学校校長

**14. 東北・北海道地区協議会常置委員会**

日 時 2024年3月22日（金）14時30分

場 所 オンライン開催予定

参加者 （予定）原田善教理事長、大西晴樹院長・学長、原田浩司宗教部長（教研全国委員・後継者養成部会委員）、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任（教研全国委員）、工藤彩絵子庶務課係長（事務局）

2023年度

東北学院宗教センター 宗教活動報告



## 2023年度 東北学院宗教センター 宗教活動報告

東北学院宗教センターチャプレン 佐藤 由子

2023年度は、センター構成員が整えられて、これまでの活動に加えて、TGCF（東北学院キリスト教フェロースhip）の活動も始まり、実り豊かな一年となりました。

幼稚園から大学まで、東北学院の各設置校との対面での祈祷会では、少しずつ通常の礼拝を献げることができる恵みを分かちあいつつ、園児、生徒、学生の歩みの為に祈ることができました。また「いのち ひかり あい」や「水曜通信」等を通して、東北学院のキリスト教活動について発信し、説教集も日々の礼拝から「ひかり」をテーマにしたメッセージを特集して刊行させていただけたことは、大きな恵みでした。

2023年度は、多くの方々のご協力により、ランカスター神学校からアン・タイヤー教授をお迎えして、本学院でランカスター神学校との国際シンポジウム・講演会を開催することができました。東北学院に受け継がれた信仰と神学の特徴を学び語り継いでいくことは、今後さらに重要になると思われます。今後も、ランカスター神学校との交わりを大切にし、信仰の継承が豊かになされることを願っています。



TGCF English Cafe  
2023年6月1日（木）



TGCF ミュージックサービス（音楽礼拝）  
2023年6月15日（木）



第63回水曜公開礼拝【第1部 礼拝】  
2023年6月21日（水）  
説教：原田浩司（宗教センター主任）



ランカスター神学校との  
国際シンポジウム・講演会  
開催日：2024年2月6日（火）・7日（水）  
アン・タイヤー教授

## 1. 宗教センター構成員

所 長	大西晴樹（院長・学長）
センター主任（兼任）	原田浩司（大学宗教部長）
所 員 1	原田浩司（大学宗教部長）
所 員 2	松井浩樹（中学校・高等学校宗教主任）
所 員 3	西間木順（榴ヶ岡高等学校宗教主任）
所 員 4	島内久美子（幼稚園園長）
所 員 5	田島 卓（大学宗教主任）
所 員 6	藤野雄大（大学宗教主任）
センターチャプレン	野村 信
主 事	佐藤由子（日本基督教団仙台南伝道所牧師）
嘱託職員	大久保知美

## 2. 宗教センター実務委員会（打合せ会：祈祷と報告／予定）

日 時：毎週月曜日 39回開催

場 所：宗教センター事務室別室（7号館3階）

## 3. 2023年度宗教センター委員会

	日 時	場 所	項 目
第1回	2023年5月24日(水) 15:30～16:19	宗教センター事務室別室 (Zoom 併用)	「2023年度宗教センター構成員について」他
第2回	2023年11月29日(水) 15:00～16:09	本館会議室 (Zoom 併用)	「ランカスター神学校との国際シンポジウム・講演会の件」他
第3回	2024年2月27日(火) 14:30～15:30	本館会議室 (Zoom 併用)	「2023年度活動報告と2024年度宗教センター構成員と活動予定」他

## 4. 2023年度宗教センター祈祷会（各校訪問・懇談）

### ①第1回

日 時	場 所	出席者
2023年6月20日（火）15:30～16:30	東北学院幼稚園	13名
2023年6月28日（水）15:30～16:30	東北学院中学校・高等学校	9名
2023年7月4日（火）15:00～16:00	東北学院榴ヶ岡高等学校	9名

## ②第2回

日 時	場 所	出席者
2023年11月1日(水) 15:00~16:00	東北学院中学校・高等学校	8名
2023年11月14日(火) 15:10~16:10	東北学院幼稚園	12名
開催せず	東北学院榴ヶ岡高等学校	

## 5. 東北学院宗教センター出版物

タイトル	内 容	発行日	部 数
宗教活動報告書 第4号	2022年東北学院宗教活動報告 法人、宗教センター、大学、 各設置校宗教活動報告	7月31日	520冊
宗教センター便り 「いのちひかりあい」第6号	各学校の宗教活動の報告など	9月11日	4,000部
宗教センター便り 「いのちひかりあい」第7号	クリスマス特集号	12月5日	4,000部
水曜通信 第26号~第35号	巻頭言、礼拝要旨、その他	4月~2月 (8、3月休刊)	各900部
東北学院礼拝説教集 第4号	各学校での礼拝説教掲載	3月31日	5,500冊
キリスト教活動のしおり	各学校のキリスト教活動案内	4月1日	6,000冊

## 6. 水曜公開礼拝【別添資料1】

日 時：4月~2月の毎月第3水曜日 18時半~19時半

回 数：10回 [8月、3月は休会]

内 容：第1部礼拝、第2部オルガン等による演奏

平均出席人数：39人

## 7. 教職員聖歌隊の活動

開 催 日：毎月第4水曜日 19時~ 対面にて実施

実 施 日：4月26日、5月24日、6月28日、8月2日、9月27日、10月25日、11月22日、  
1月15日、2月28日

出席平均人数：約14人

主な練習曲目：讃美歌-121番、讃美歌第2編-152番、197番、203番

讃美歌21-86番、120番、469番、252番、257番

キリストよ、光の主よ(222)

水曜公開礼拝での合唱実施：1月17日(水) ラーハウザー記念東北学院礼拝堂にて

## 8. TGCF（東北学院キリスト教フェローシップ）の活動

活動日：原則木曜日午後

活動内容	日 程	平均出席人数
ミュージックサービス（音楽礼拝） ／礼拝後交流会	4月27日、5月18日、6月15日、 7月13日、8月31日	40人
English Café（国際交流）	5月11日、6月1日、7月6日、 8月31日、10月5日、11月2日、 12月7日	37人
交流会（ボードゲーム&ゆるかふえ）	10月19日、11月9日	19人
ミーティング／音楽礼拝練習	4月6日、4月20日、5月25日、 6月8日、6月29日、9月28日、 10月26日、11月2日、11月9日、 11月30日、12月14日	10人
ゴスペルワークショップ	9月21日、10月26日	30人
大学礼拝での音楽奉仕	11月6日、11月8日、12月4日	
五橋クリスマス賛美奉仕	12月8日	
TGCF クリスマス	12月21日	29人

## 9. ランカスター神学校との国際シンポジウム・講演会の開催

日 程：2024年2月6日（火）、7日（水）

場 所：ホーイ記念館ホール

内 容：シンポジウム「ランカスター神学校と東北学院」

アン・タイヤー教授、リー・バレット教授（代読）

藤野雄大総合人文学科講師

学術講演会

「いかに聴くか：中世末期から近代初期における信仰教育」

アン・タイヤー教授

「現代神学の多様な声：カオス？コーラス？」リー・バレット教授（代読）

## 10. 東日本大震災13年追悼祈祷会

日 時：2024年3月11日（月） 14時30分～14時50分まで

場 所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂（土樋）

## 11. ホームページの更新

活動案内と出版物の掲載など適宜掲載

## 12. SNSでの情報発信

2023年7月10日より宗教センター公式インスタグラムとX（旧Twitter）で、主にTGCFの活動について、情報発信を開始

## 《礼拝開催日及び担当者一覧》

[4月～2月（\*8月、3月は除く）]

## 【第1部 礼拝】

回	開催日時	説教者	奏楽者	讃美歌	聖書	頌栄	参加人数
61	4月19日	野村 信	小野なおみ	122番 38番	ルカによる福音書 6章20-26節	540番	41人
62	5月17日	佐藤 由子	椎名雄一郎	39番 第2編-4番	詩編 90編	545番	35人
63	6月21日	原田 浩司	今井奈緒子	34番 249番	ローマの信徒への手紙 7章20-25節	544番	44人
64	7月19日	松本 宣郎	大泉 真理	39番 541番	ヨハネによる福音書 8章12節	541番	37人
65	9月20日	田島 卓	山司恵莉子	39番 10番	レビ記 19章17-18節	539番	37人
66	10月18日	大西 晴樹	渡辺 真理	讃21-226番 讃21-482番	創世記1章6-7	讃21-275番	39人
67	11月15日	松井 浩樹	小野なおみ	122番 390番	マタイによる福音書 18章10-14節	541番	51人
68	12月20日	藤野 雄大	今井奈緒子	讃21-241番 讃21-265番	ルカによる福音書 2章8-14節	讃21-25番	35人
69	1月17日	西間木 順	椎名雄一郎	39番 270番	ヘブライ人への手紙 11章8-16節	539番	68人
70	2月21日	野村 信	菅原 淑子	37A番 352番	ヘブライ人への手紙 11章8-22節	543番	50人

## 【第2部 音楽による賛美】

回	演奏者		回	演奏者	
61	小野なおみ	オルガン独奏・伴奏	67	小野なおみ	オルガン独奏・伴奏
	中川郁太郎	独唱		佐藤 由子	マリンバ演奏
62	椎名雄一郎	オルガン独奏	68	今井奈緒子	オルガン独奏
63	今井奈緒子	オルガン独奏	69	椎名雄一郎	オルガン独奏・伴奏
64	大泉 真理	オルガン独奏		教職員聖歌隊	合唱
65	山司恵莉子	オルガン独奏	70	菅原 淑子	オルガン伴奏
66	渡辺 真理	オルガン独奏		レトウスヴォーカルアンサンブル	合唱

## TGCF (東北学院キリスト教フェローシップ) 活動報告

宗教センターチャプレン 佐藤 由子

2023年度に始動した TGCF (Tohoku Gakuin Christian Fellowship) は、五橋キャンパスの開業に合わせて、オール東北学院としての交わりのために立ち上げられました。初年度は、クリスチャンの学生を中心とした、大学生のための活動が行われ、主な活動は、English Café (6回)、ミュージックサービス (4回)、学生企画交流会 (3回) となりました。

English Café (国際交流・学部間交流) は、仙台市在住の宣教師の方々に講師にお招きし、ちょっとした学内留学のような形で行われました。英語のゲームやグループに分かれての活動の他、カフェを楽しみながらの自由な英会話などが行われました。ミュージックサービス (学生による讃美演奏やメッセージ) は、聖歌隊の讃美とワーシップソング (J-ポップのような讃美歌) のバンド演奏と讃美が献げられ、聖書の話しやメッセージも学生の方々が担当しました。礼拝後は、ホーイ記念館ホール (地下) からコラトリエ・リエゾン (1階) に移動し、交わりの時間がもたれました。近隣教会の方々が参加して下さったことで、良き出会いの場となり、教会の雰囲気も体験できる時間となりました。学生企画の交流会 (ゆるかふえ×ボードゲーム/クリスマス会) は、大学1年生から大学院生の学部間・他学年交流の場となりました。誰でも集える場所、みんながほっと出来る時間をテーマに企画されました。

また毎月の定期活動とは別に、特別企画や特別奉仕も行われました。ニューヨークから同世代の方々をお招きした国際交流と音楽礼拝のコラボイベント (夏休み)、音楽礼拝後の交わりをきっかけに与えられた John Lucas氏によるゴスペルワークショップ (後期2回)、国際交流課の方々と初めて共催させて頂いたクリスマスイベント (12月) が行われました。また大学礼拝における讃美奉仕や第1回五橋クリスマスでの讃美奉仕など、学生の方々が主への奉仕と並行して、TGCF 周知のために、積極的に活動して下さいました。

東北、関東、関西、九州出身の6名の学生が中心となり、多くの方々の祈りと支えの中で、それぞれの賜物を生かして、共に主に仕えることができた恵みを、心から主に感謝いたします。

### English Café (国際交流/学部間交流)

English Caféは、毎月1回、月前半の木曜日の15時～16時半で開催しました。仙台で活動している宣教師の方々に講師としてご協力いただき、英語でのコミュニケーションをメインに言語や国籍を超えた交わり、また学内留学のような雰囲気の中、学部間交流の時となりました。チャレンジの新術で始まり、アイスブレイク(英語ゲーム)、自由懇談、カフェタイム、グループ懇談、自己紹介などを行いました。土曜キャンパスのコर्टリエ・リエゾンで行ったこともあり、プログラム終了後も、それぞれで会話を楽しむ姿が見られました。



### English Cafe(国際交流)



### アイスブレイカーゲームを通して新しい友達との出会いや交わり、リスニング練習 各グループ活動の内容紹介:自分の行ってみたいグループへ移動



### グループ活動



### グループ活動の発表・自己紹介・感想タイム



### プログラム(15:00~16:30)終了後のチャットタイム



### ミュージックサービス (音楽礼拝/学生司会/メッセージ)

ミュージックサービスは、毎月1回、月後半の木曜日の16時～17時で開催しました。聖書・讃美・メッセージ・祈禱とシンプルな礼拝ですが、TGCFワークショップチームを立ち上げ、コンテンポラリーワークショップを讃美しました。また祝祷以外は全て学生の奉仕によって行われました。礼拝後の交わりは、教会のお茶会のような和やかな雰囲気の中行われ、近隣教会の方々との出会いの場となりました。



### 音楽礼拝



### コンテンポラリーワークショップ



### TGCF 讃美曲

#### ・海外ワークショップ

山も海も越え  
鹿のように  
聞け、我らの賛美  
君は愛されるために生まれた  
聖この夜  
How Great Is Our God  
Still  
私の望みは主イエスだけにある  
(土曜大学礼拝)

#### ・日本オリジナル

①いのちの光  
②誰もみたことのないことが  
③愛をもって生きていこう  
④よるこびの歌  
(上記、作詞作曲 長沢崇史牧師  
どんなどきでも  
揺るがない岩  
Happy Merry Christmas  
夢見人/ドリーマー(五橋大学礼拝)

音楽礼拝後  
交わり



TGCF イベント参加団体・教会

English Café 講師 (Missionaries)

- ・ OM : Operation Mobilization
- ・ OMF : Overseas Missionary Fellowship
- ・ YWAM : Youth With A Mission
- ・ CTEN : Commission To Every Nation
- ・ フリーダムライフチャーチ

イベント出席 (TGCF 大学生・大学院生 所属教会)

- ・ 八木山聖書バプテスト教会
- ・ オアシスチャペル利府キリスト教会
- ・ 仙台富沢教会
- ・ 石巻山城町教会

イベント出席 (東北教区 大学附属教会)

- ・ 仙台広瀬河畔教会
- ・ 仙台東一番町教会

イベント出席 (近隣教会・宣教師団)

- ・ プレイズコミュニティチャーチ
- ・ 国際ナビゲーター
- ・ FCBC 仙台教会
- ・ ゴスペルタウン
- ・ 仙台泉福音教会
- ・ その他

学生企画交流会



大学礼拝奉仕



特別イベント



特別イベント



国際交流課  
& TGCF 共催



東北学院大学主催 第1回五橋クリスマス出演



TGCF ワークショップチーム 2023

# ランカスター神学校との国際シンポジウム・講演会報告

宗教センター主任 原田 浩司

2024年2月6～7日の二日間にわたり、宗教センター主催による国際シンポジウムと講演会が、ランカスター神学校からアン・タイヤー教授をお迎えして行われました。当初、リー・バレット教授も来日を準備していましたが、健康上の理由により辞退され、発題と講演の原稿を寄稿していただき、両日とも代読による参加となりました。

開会礼拝では、讃美歌312「慈しみ深き」を英語で共に神を賛美し東北学院のスクールモットーである「LIFE LIGHT LOVE」を聖書の言葉から再確認することから始まりました。初日のシンポジウムのテーマは「ランカスター神学校と東北学院」。アン教授の発題講演は「移住した人々の及ぼす影響：米国のドイツ改革派キリスト者と彼らの神学校（1890年まで）」と題して、ドイツ系移民団がアメリカでランカスター神学校を設立するに至る歴史的な経緯、またランカスター神学校を中心に形成された「マーサーズバーグ神学」とその担い手たちについてお話しくれました。またバレット先生の「ランカスター神学校の受肉論的焦点：マーサーズバーグ神学から新正統主義へ、更に先へ」と題する原稿は野村信チャブレンが原稿を代読し、「マーサーズバーグ神学」の特徴を丁寧に解説してくれました。その後、本学の藤野雄大先生が「ランカスター神学校から東北学院へーその神学的関係性」と題し、ランカスター神学校出身者の宣教師たちが東北学院にもたらした信仰と神学のルーツと特徴について解説していただきました。討議の時間では、タイヤー教授の発題講演に対し、本学の田島卓先生がコメント解説し、バレット教授には本学の渡邊蘭子先生がコメントをするなど、マーサーズバーグ神学についての理解を更に深める一日になりました。

東北学院宗教センター主催

## ランカスター神学校との 国際シンポジウム・講演会

2024.2/6(水)・7(木) 会場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール 申込  
不要 入場  
無料  
の駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



ランカスター神学校 Santee Chapel



ルーザーヴァー記念東北学院礼拝堂

### 2/6(水) 13:00～

シンポジウム(ホーイ記念館ホール(土樋キャンパス))

13:00 開会礼拝(司式：原田浩司 宗教センター主任)  
13:25 開会の挨拶  
13:30 シンポジウム開始(司会：野村信チャブレン)

「ランカスター神学校と東北学院」  
Lancaster Theological Seminary and Tohoku Gakuin

発題1 アン・タイヤー教授	13:35～14:15
発題2 リー・バレット教授(代読)	14:15～14:55
休憩	15:00～15:20
発題3 藤野雄大総合人文学科講師	15:20～16:00
自由討議	16:00～16:30

### 2/7(木) 10:00～

学術講演会(ホーイ記念館ホール(土樋キャンパス))

10:00 講演開始(司会：佐藤由子 宗教センター主事)  
10:00 タイヤー教授による講演  
「いかに読むか：中世末期から近代初期における信仰教育」

休憩(15分)  
11:15 バレット教授講演代読  
「現代神学の多様な声：カオス・コラウス？」

12:15 開会の挨拶

アン・タイヤー教授 Dr. Anne Thayer  
ランカスター神学校、教会史教授、中世・近世の一次資料を解説し、  
「聖書の読みと宗教学の歴史」をテーマとする。マーサーズ  
バーグ神学、キリスト教神学と異文化・異宗教の関係を論じる。  
1998年ハーバード大学にて博士号取得、中世教会史学専攻。法  
学博士、宗教史学、神学、中世教会史学、マーサーズバーグ  
神学専攻。



※来場予定していないバレット教授(神学)の発表原稿は、代読となります。

問合せ先 東北学院宗教センター  
〒984-8588 仙台市若林区港水小路3-1 TEL: 022-354-8310 Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

二日目の講演では、タイヤー教授が「中世末期から近代初期における罪の赦しの教え：その特徴点」と題して、御自身の専門である歴史神学的な視点から「罪の赦し」の教理と説教の変遷を解説していただきました。バレット教授の講演「現代神学の多様な声：カオスかコーラスか」は原田浩司主任が代読し、今日のアメリカ社会におけるプロテスタント信仰者の特徴や傾向を「冒険家」や「十字軍」といった独特な表現で分類し、その特徴を整理していただきました。

両日とも入念に準備された講演をとおり、特にアメリカ人の視点から東北学院に受け継がれたプロテスタントの信仰と神学の特徴を再認識する貴重な機会となりました。なお、事前に野村チャプレンがお二人の原稿を翻訳してくださったため、英語による講演でしたが、参加者は内容を十分に理解することができました。最後に、今回の国際交流の企画の実現を楽しみにしておられた鐸木道剛先生が病氣療養のため当日不在となり、開催後に天に召されました（2月15日）。鐸木先生に改めて心から、感謝と哀悼の意を表し、主なる神の慰めと平安をお祈りします。



2023年度

東北学院大学 宗教活動報告



## 2023年度 東北学院大学 宗教活動報告

東北学院大学 宗教部長 原田 浩司

大学では2023年度より五橋キャンパスが開業し、それに伴う新学部・新学科の改組など、138年にわたる本院全体の歴史の中でもエポックメイキングな一年となった。キリスト教活動においても、大学礼拝や寄宿舍礼拝のための泉や多賀城への移動もなくなり、宗教部の働きもかなり軽減されたと言える。

2023年度は初頭から新型コロナウイルス感染症の規制や制限から解放され、対面での活動が全面的に再開された。しかし、コロナの影響や立地環境の変化、また土樋と五橋とのキャンパス間移動が生じるなど、多様な要因から、大学礼拝の出席者が大きく減少し、本年度の学生出席者の延べ人数は約2万5千人弱となった。かつて10万人を数えた本院の大学としては物足りない数字であった。礼拝は決して数値だけで良し悪しを測るべきではないことは言うまでもない。講義期間毎日実施された礼拝の説教の担当者は誠実に自らの役割を果たしていただいた。であればこそ、更に多くの学生に福音を届けたいと願わざるを得ない。



第48回サマーカレッジ

日 程：2023年8月8日（火）  
主 題：「キリスト教と平和  
～戦時下の東北学院の歩みを通して」  
講 師：仁昌寺正一氏（本学名誉教授）



第67回東北学院大学教職員修養会

日 程：2023年8月21日（月）・22日（火）  
主 題：『聖書に聴く』  
講 師：松田和憲先生（学校法人関東学院学院長）



クリスマスツリー点灯式

日 程：2023年12月8日（金）  
場 所：五橋キャンパス



大学クリスマス

日 程：2023年12月14日（木）  
講 師：鎌倉雪ノ下教会 中村慎太牧師  
説教題：恐れずにキリストを迎え

## 1. 教員組織

宗教部長	原田浩司
書 記	藤野雄大
土樋キャンパス担当	大門耕平、田島 卓、原田浩司、渡邊有美
五橋キャンパス担当	川島堅二、椎名雄一郎、藤野雄大、吉田 新、渡邊蘭子
キリスト教文化研究所所長	椎名雄一郎
総合人文学科長	木村純二
大学オルガニスト	今井奈緒子

## 2. 礼拝オルガニスト（五十音順、敬称略）

今高和枝、大泉真理、小野なおみ、菅原淑子、山司恵莉子、渡辺真理

## 3. 大学礼拝【資料1】

(1) 実施回数、出席者数（学生のみ）

キャンパス	土樋	五橋	合計
回 数	150回	150回	300回
出席者数	4,655名	19,821名	24,476名

(2) 担当者内訳

・学内教職員192回、学外牧師等108回

## 4. 聖書研究会

土樋キャンパス	大門 耕平	moral education
	川島 堅二	神と出会った人々に学ぶ
	椎名雄一郎	オルガン音楽を聴く（土樋又は五橋で開催）
	野村 信	聖書を読む
	原田 浩司	キリスト教の教えの基本
	吉田 新	ギリシア語聖書を読む
	渡邊 有美	キリスト教と美術
五橋キャンパス	木村 純二	聖書の学びと祈りの時間
	田島 卓	旧約聖書と現代
	藤野 雄大	東北学院とキリスト教
	渡邊 蘭子	聖書を味わう

## 5. 宗教部会

開催日：4月27日、5月25日、6月22日、8月3日、9月28日、10月26日、11月16日、  
1月18日、2月19日 計9回

## 6. 大学宗教主任会

開催日：11月9日、3月開催予定 計2回  
議 題：当初予算編成、礼拝担当表作成、ほか

## 7. 宗教部自己点検評価会

### (1) 第1回（前期）

日 時：2023年9月12日（火）～15日（金）（メール審議）

主 題：「2023年度前期宗教活動について」  
「2023年度後期宗教活動予定について」

### (2) 第2回（後期）

日 時：2024年2月19日（月）

主 題：「2023年度宗教活動について」  
「2024年度宗教活動予定について」

## 8. 2023年度スプリング・カレッジ

### (1) 4月開催分

日 時：2023年4月13日（木）10時40分～14時00分

場 所：土樋キャンパスホーイ記念館（地下）ホール

参加者：23名（学生10名、教員9名、職員4名）

### (2) 5月開催分

日 時：2023年5月13日（土）10時00分～12時00分

場 所：土樋キャンパスホーイ記念館（3階）H302教室

参加者：13名（学生10名、教員3名）

## 9. 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

### (1) 土樋キャンパス

日 時：2023年5月11日（木）10時05分～10時55分

説教者：阿部倫太郎牧師（日本基督教団東和歌山教会）

出席者：27名

### (2) 五橋キャンパス

日 時 2023年5月10日（水）10時05分～10時55分

説教者：阿部倫太郎牧師（日本基督教団東和歌山教会）

出席者：502名

#### 10. キリスト者等推薦学生懇談会（前期）

日 時：2023年7月5日（水）12時25分～12時55分

場 所：五橋キャンパスシュネーダー記念館（6階）第1会議室

参加者：17名（学生7名、教員7名、職員3名）

#### 11. 宗教部研修会

日 時：2023年8月3日（木）16時00分～18時00分

場 所：土樋キャンパス8号館（3階）第3会議室

テーマ：「讃美歌21と聖書協会共同訳について」

発題者：椎名雄一郎大学宗教主任、吉田新大学宗教主任

参加者：16名（教員10名、職員6名）

#### 12. 第48回サマー・カレッジ

日 時：2023年8月8日（火）10時00分～16時30分

場 所：土樋キャンパスホーイ記念館（2階）H202教室ほか

主 題：「キリスト教と平和：戦時下の東北学院の歩みを通して」

講 師：仁昌寺正一氏（本学名誉教授）

参加者：30名（学生16名、教員10名、職員4名）

#### 13. 第67回教職員修養会

日 時：2023年8月21日（月）～22日（火）

場 所：アクティブリゾーツ宮城蔵王

講 演：「キリスト教学校の存在意味－“Life Light Love”を生きる」

講師：松田和憲氏（学校法人関東学院学院長）

発 題：「東北学院と仙台教会」

講師：瀬谷寛氏（仙台東一番丁教会牧師）

「キリスト教教育～東北学院榴ヶ岡高校の実践例～」

講師：西間木順氏（東北学院榴ヶ岡高等学校宗教主任）

「東北学院宗教センターの発足とその活動」

講師：原田浩司（東北学院大学宗教部長）

参加者：85名

#### 14. 秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

##### (1) 土樋キャンパス

日 時：2023年10月12日（木）10時05分～10時55分

説教者：阿部頌栄牧師（仙台富沢教会）

参加者：89名

##### (2) 五橋キャンパス

日 時：2023年10月11日（水）10時05分～10時55分

説教者：阿見高洋牧師（プレイズ・コミュニティー・チャーチ）

参加者：221名

#### 15. キリスト者等推薦学生懇談会（後期）

日 時：2024年12月5日（火）12時25分～13時05分

場 所：五橋キャンパスシュネーダー記念館（6階）第1会議室

参加者：24名（学生15名、教員5名、職員4名）

#### 16. 第1回五橋クリスマス（旧泉キャンパスクリスマス）

日 時：2023年12月8日（金）18時30分～20時00分

場 所：五橋キャンパス押川記念館（2階）押川記念ホール

参加者：約550名

#### 17. 大学クリスマス

##### (1) 土樋キャンパス

日 時：2023年12月14日（木）10時05分～10時55分

説教者：中村慎太牧師（鎌倉雪ノ下教会）

参加者：117名

##### (2) 五橋キャンパス

日 時：2023年12月14日（木）15時00分～16時00分

説教者：中村慎太牧師（鎌倉雪ノ下教会）

参加者：189名

#### 18. 第28回キリスト者教員研修会

日 時：2024年1月25日（木）14時00分～16時00分

場 所：土樋キャンパス8号館（3階）第3会議室

参加者：20名（教員17名、職員3名）

**19. 礼拝司会者・オルガニスト懇談会**

日 時：2024年2月19日（月）11時30分～13時30分

場 所：土樋キャンパス

**20. 大学宗教委員会**

日 時：2024年3月4日（月）14時30分～15時30分

場 所：土樋キャンパス5号館（5階）第1会議室

**21. 学長招待卒業生懇談会**

日 時：2024年3月12日（火）12時30分～13時30分

場 所：土樋キャンパス8号館（3階）第1会議室

**22. 卒業記念礼拝**

日 時：2024年3月26日（火）

説教者：宗教部長

説教題：「LIFE LIGHT LOVE」

**23. 礼拝奉仕者懇談会【中止】**

**24. 青山学院大学・東北学院大学合同チャプレン代表者会【中止】**

**25. 宗教部印刷物**

『チャペル・ニュース150号 入学・進級号』

『東北学院大学のオルガン』

**26. その他諸会議**

パイプオルガン委員会、礼拝堂委員会

## 第67回東北学院大学教職員修養会プログラム

日 時：2023年8月21日（月）・22日（火）

会 場：アクティブリゾート宮城蔵王

主 題：『聖書に聴く』

講 師：松田 和憲先生（学校法人関東学院学院長）

発題者：瀬谷 寛先生（仙台東一番丁教会牧師）

西間木 順先生（東北学院榴ヶ岡高等学校宗教主任）

原田 浩司先生（東北学院大学宗教部長）

### 8月21日（月）

9:00 土樋キャンパスから送迎バス出発

10:00 受 付

10:30 開会礼拝 説教：大西 晴樹先生

奏楽：今井奈緒子先生

司会：原田 浩司先生

学長挨拶

理事長挨拶

講師紹介

11:00 講 演 演題：『“Life Light Love”を礎として生きる』

講師：松田 和憲先生

司会：藤野 雄大先生

12:00 質疑応答・事務連絡

12:30 昼 食（昼食後、各自時間までにグループ懇談会場へ移動）

14:00 グループ懇談『講師講演をめぐって』

16:00 全体懇談 演題1：『東北学院と仙台教会』

発題者：瀬谷 寛先生

演題2：『キリスト教教育～東北学院榴ヶ岡高校の実践例～』

発題者：西間木順先生

演題3：『東北学院宗教センターの発足とその活動』

発題者：原田 浩司先生

司 会：川島 堅二先生

18:00 夕 食

19:30 自由懇談「講師を囲んで」（参加自由）

8月22日(火)

7:00 朝食・チェックアウト

9:00 朝 拝 説教：松田 和憲先生

奏楽：今井奈緒子先生

司会：渡邊 蘭子先生

10:00 全体協議・報告会

司会：田島 卓先生

12:00 閉会礼拝 説教：原田 浩司先生

奏楽：今井奈緒子先生

閉会挨拶

12:30 昼 食

13:30 ホテル前から送迎バス出発

14:30 土樋キャンパスへ送迎バス到着

## 講師略歴

松田 和憲（まつだ かずのり）

学校法人関東学院 学院長

1948年生まれ

## 学 歴

- 1971年3月 東北学院大学文学部キリスト教学科卒業  
1975年6月 米国アメリカン・バプテスト西部神学校卒業（神学修士号取得）  
2007年3月 同志社大学大学院神学研究科後期課程修了（博士号（神学）取得）

## 職 歴

- 1975年4月 日本バプテスト同盟 鹿島台キリスト教会牧師〔～1981年6月まで〕  
1981年7月 同 神戸・西岡本キリスト教会牧師〔～1987年3月まで〕  
1987年4月 同 札幌・北野キリスト教会牧師〔～1996年3月まで〕  
1996年4月 同 宣教室室長、東京・杉並中通教会牧師〔～1999年3月まで〕  
1999年4月 関東学院大学工学部助教授〔～2004年3月まで〕  
2001年4月 日本バプテスト同盟 関東学院教会牧師〔～2015年7月まで〕  
2004年4月 関東学院大学工学部教授〔～2013年3月まで〕  
2013年4月 関東学院大学理工学部教授〔～2014年3月まで〕  
2014年4月 関東学院大学理工学部特約教授〔～2019年3月まで〕  
2018年12月 学校法人関東学院学院長〔現在に至る〕

## 『キリスト教学校の存在意味—“Life Light Love”を生きる』

関東学院学院長 松田 和憲

### はじめに

- ・私は中学、高校、大学の10年間（1960年4月-1971年3月）、東北学院で学んだ「学院ボーイ」で、3L精神、“Life Light Love”のことを何度も聞きながら学校生活を送る。余韻は心の奥底に残っている。
- ・東北学院で学んだ諸々のことは、わたしの自己形成の礎となった。…尊敬すべき先生方との出会い、友人との出会い、キリスト教信仰を与えられたこと、神学の基礎を学ぶことができたこと等々。
- ・牧師41年、大学教師20年の歩みを経て、学院長を務めて5年目を迎えての喫緊の課題は「責任を担っているキリスト教学校の存在意味を見出し、いかに生き続けるか」という問いを掲げて歩んでいる。
- ・大学で「キリスト教概論」「キリスト教倫理」等を教えながら、大学宗教主任、学院宗教主任、そして、学院長を務める立場で、学院のキリスト教教育はどうあるべきか、常に考え続けてきた。
- ・その取り組みの中で、辿り着いた事柄は、建学の精神、スクールモットー（校訓）、教育理念に立ち返り、その今日的意味を再吟味し、それをいかに内実化するか、という問いを問うことにあった。
- ・Ⅰ章では、第二次大戦以降、キリスト教学校が辿った歩みを概観する中で、関東学院の辿った歩みにも触れ、明らかになった課題、問題について論じたいと思う。
- ・Ⅱ章では、東北学院のスクールモットー“Life Light Love”の出自を探り、その聖書的意味、3つのキーワードの関連性について等々、出来る範囲で、ある種の「仮説」を展開してみたいと考えている。
- ・Ⅲ章では、関東学院が過去10年間、問題といかに対峙し、どのように乗り越えようとしたか、また、そこから見えてきた、今後の「キリスト教学校のあるべき姿」について論じて終わりたい。

## I. 戦後のキリスト教学校の動静及び関東学院大学の歩みについて（1945年～2020年頃）

### 1) 第二次大戦以降のキリスト教学校の動静

①1945年（昭和20年）の敗戦により、長年キリスト教学校を呪縛した訓令第12号が解除され、私立学校の宗教教育が公認されて、戦後キリスト教ブームと、新たに開始された海外宣教団体（ミッションボード）からの援助により「ミッション・スクール」発展の時代を迎えるのである。

\* 「ミッション・スクール」の特色（松村克己の論文「宗教と教育」1958年）：

- (1) 経営の主体がボードにあり、経済的支援をボードに依存している。
- (2) ボードは伝道のための手段として教育施設を持ち、それを主導的に統括する。
- (3) 伝道地（mission land）の文化が本国に比べて劣悪である故、ボードは文化的優越性を保ちながら、伝道地の子女の教育指導にあたる。

➡戦前、戦中、そして戦後しばらくの間は、キリスト教学校が「ミッション・スクール」という性格を色濃く残す形になり、それが1970年初頭のオイルショック期まで続いた。

②1970年代後半から「ミッション・スクール」に替って、「キリスト教学校」と呼ばれるようになり、キリスト教学校の教育の目的、内容、位置づけなどを巡り議論がなされ現在に至っている。

\* 「キリスト教学校」：

創設期からキリスト教会及び海外ミッションボードとの有機的関係を大切に、寄附行為第1条で、キリスト教（の精神）に基づく学校教育であることを明確に表明している。

・役職者のキリスト者条項（クリスチャン・コード）を堅持すると共に殆どの大学では「キリスト教学」「キリスト教概論」を必修科目と位置づけ、大学「礼拝」への参加をはじめとする、キリスト教関連の諸行事参加についても、コア科目である「キリスト教学」の一部として捉えている。

・また殆どの大学、中高では、チャプレンもしくは宗教主事の職務を明文化し、高校以下の学校では校長・教頭がその任にあたり、毎日の「礼拝」及び「聖書」科授業、キリスト教諸行事等をキリスト教教育の中心部分に位置づけている。

➡東北学院、関東学院は「キリスト教学校」の範疇に属している。

cf. 「キリスト教主義学校」…まず学校の経営、運営を考慮した上でキリスト教的要素を付加する。（寄附行為第1条で謳ってはならず、教育的手段、方法として、礼拝、聖書科授業等を行う。）

### 2) 第二次大戦後～現在に至るまでの関東学院大学の歩み（キリスト教教育の視点から観て）

#### a. 大学発足から現在まで：

- ・1945年横浜大空襲で建物・設備の4分の3焼失、六浦の旧海軍航空技術廠工員者養

- 成所の土地・建物の使用許可。
- ・1949年学制改革により経済学部・工学部設置。
  - ・1959年神学部を設置（1973年廃部）
  - ・1968年文学部、1991年法学部（小田原）、2002年人間環境学部、2013年以降、理工学部／建築・環境学部／看護学部【11学部5大学院、学生総数約11,000名】
- b. 1970年代…大学紛争の終焉と高度成長の波、高学歴社会の到来で多数の学生を獲得➡大学の世俗化・マスプロ化が加速し、キリスト教教育、建学の精神徹底の姿勢が希薄になる。バブル崩壊まで。
- c. 1990年代になり、少子化の波が押し寄せ、大学設置基準の大綱化を受けて、カリキュラムの再編成が迫られ、自らの大学の教育内容、建学の精神及び教育理念の再吟味が求められる。
- d. 関東学院は「何をウリにして勝負するのか？」ラグビーか、それとも他のスポーツで勝負！！（スポーツ全盛期：箱根駅伝6回出場、全国大学ラグビー選手権6回優勝…早稲田大学と10年連続首位決戦 於・国立競技場）しかしながら、2007年、ラグビー部大麻事件で挫折。
- e. 2000年から2013年頃まで、関東学院は色々な意味で「冬の時代」を迎える。（その時期の主な出来事：2001年 米国同時多発テロ、2006年 新教育基本法の施行、2007年 関東学院大学ラグビー部大麻事件、2008年 リーマンショック、2009年 関東学院創立125周年記念諸行事、2011年3月11日 東日本大震災）
- @その中で生まれた本質的な問い：
- これから学院が生き延びていくために何をすべきか？
- ➡建学の精神に立ち返り、キリスト教教育の充実と徹底をはかり、校訓（スクールモットー）を再吟味して、それを内実化させることにあるのではないか。（以来、学院長は、建学の精神を紐解き、校訓「人になれ 奉仕せよ」の意味する処、聖書の根拠等を語り始め、かれこれ5年目を迎えている。）

## II. 東北学院のスクールモットー “Life Light Love” を考える

### 1) このスクールモットーを巡って

“Life Light Love” を論じるにあたって、過去に書き記された方々の文書、コメントが残っていないか、東北学院史資料センターの安部茂徳氏に電話で問い合わせた処、その日のうちにデータと本文を送ってくださった（7/31）➡シュネーダー先生の文書の他、懐かしい小笠原政敏先生、竹井一夫先生、水野和夫先生、出村彰先生、大西晴樹先生のコメントが見つかった。➡後ほど紹介したい。

### 2) キーワード：「生命」「光」「愛」の関連で、テキストを読む。（該当箇所：ヨハネ福音書3:16-21）

### ①このテキストを選択した理由

…ヨハネ福音書の中で、3つのキーワードを用いて、キリスト教の中心的なメッセージを告知している箇所であり、本テキストの積義を試みながら、3つのキーワードの関連性について論じてみたいと考えたからである。(新約聖書の中でも最も有名な言葉の一つで、以前から「小福音」と呼ばれ親しまれてきた箇所。とは言え、難解な箇所でもあるが…。

(⇒「講演レジュメ」作成中に、竹井一夫先生がこのテキストについて言及していることを知った。)

### ②ヨハネ福音書3章16節―21節の積義的考察…このテキストを3章全体の文脈から見ていきたい。

- 1―15節では、ユダヤ人で議員のニコデモと主イエスとの問答が記されている。ニコデモは何かを求め、あるいは何かに迷い、主イエスの許にやってきた。彼が求めているのは、「神が共におられる」ことによって「永遠の命」に至る道についてではなかったのか。これに対して主イエスは「新たに生まれなければ」と語る。その言葉にニコデモは戸惑い、しばらくちぐはぐな問答が続く。
- そうした遣り取りをそばで聞いていた、福音書記者(ヨハネ)がその問いに対する答えとして記したのが16節の言葉である。これはすべての人に向けられた普遍的なメッセージである。
- まず神の愛の対象である「この世(コスモス)」について考えてみたい。この語は新約聖書中185回、ヨハネ福音書では78回用いられ、使用頻度が高いだけでなく、ヨハネに特徴的な神学用語である。一般的には被造物世界全体を意味するが、ヨハネ福音書で「コスモス」は二つの面を持つ。
- 第一はイエスの伝道の対象としての「この世」、第二はイエスの敵対者としての「この世」を指すが、ここでは後者の意味で用いられている。すなわち、主イエスが徹頭徹尾、愛そうとした「この世」は、イエスを認めようとせず(1:10)、彼を憎み(7:7ほか)、彼を受け入れようとしない(14:23)。
- それにもかかわらず、神は「この世」を愛された。「この世」とは、この世界であり、人間そのものを指している。「この世」とは、まさに暗い闇が覆い、憎しみと不信、愛憎の渦巻くこの世界、この現実世界を、神は愛の対象とされたということは驚くべきことに他ならない。
- その流れの中で、神が「その独り子をお与えになったほどに」との挿入句をどう理解したら良いか。この挿入句を直訳すると「子を、いや、たった一人の者を与えたほどに」となる。私たちにも最後まで手放したくない、掛け替えのないものがある。神にだって、手元に残しておきたかったものがあるはずだ。そのたった一人の愛する子を、我々の世界に与えられたのである。(十字架と関連)

- ・神が「この世」を愛されたのは、「独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るため」と語る。ここで言う「いのち (Life)」とは、究極的には「永遠の命 (eternal life)」を意味する。
- ・「永遠の命を得る」とは、抽象的な彼岸の世界を知ることではなく、また、頭で考える理想的な世界を思い描くことでもなく、過ぎ行く「この世」で、与えられた「いのち」を燃焼し、過ぎ行くことのない「永遠」を実感しつつ真実に生きることを指す。  
 ➡生き方が問われる (ルカ10:25-37、Ⅱコリント4:18他) ➡「神が共におられる者」の人生は違う、それがニコデモの抱いた疑問点。
- ・「御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている」…17節で、神の意志は一貫して「この世」の救いに向けられているのに、18節では世の裁きについて言及。これは、神の救いの意志にも限界があり、相手の信仰が神による救いの条件かどうか。否、そうではない。
- ・「この世」に対する神の救いの御手は、人間の側の信仰・不信を超えて、すべての者に向けられているが、「信じない者は、既に裁かれている」と語る。これは、我々がイメージする「信じる者」は救い、「信じない者」は裁き、ということではない。【虚しさ、不確かさの中に生きながら、それでも自らの罪深さ、弱さに気付かず、その中に安住する形で裁き」の許に置かれる (三浦綾子)。】
- ・19-21節で、「光 (Light)」を「闇」との対比において語る。主イエスは「すべての人を照らすまことの光 (ヨハネ1:9)」として「この世」に来られた。この「光」が「この世」に来たということは、我々にとって、今や出会いと決断の時であることを意味している。信じないということは、神の恵みである「光」に対して心を閉ざすこと、ヨハネは、「裁き」は信じない結果もたらされることではなく、信じないということ自体が「裁き」のもとにあるとしている。
- ・「光」に写し出された人間の姿は、例外なく「闇」の中にある。そこには、救われる者と滅びる者との二分法はない。「この世」にあるすべての人間は、「闇」を愛し、滅びに向って走る。その只中で、「闇」が深まれば、深まるほど「光」はその輝きを増す。(ヨハネ8:12、マタイ5:13-16ほか)
- ・この段落において、「神の愛 (Love)」は全体を限なく包んでいる。この「愛」は 'Agape' の愛であり、'Eros' の愛とは異なる、十字架における自己犠牲の贖罪愛 (神の愛の特質: 「自己犠牲的 (Self-giving)」「無条件的 (Unconditional)」「自発的 (Spontaneous)」「普遍的 (Universal)」)

### ③諸先生方の「3L精神」についてのコメント

1)D・B・シュネーダー先生「生命、光明、愛（1923年、No.125）」（『神と人』17号、大正12年）

- ・「第一は生命、…イエス・キリストによりて現れた生命である。心の生れ変わった結果の生命である。聖書にある「永遠の生命」である。この永遠の生命によりて世界が真に新たになるのである。
- ・又（第二に）日本の将来に光明の必要がある。…イエス・キリストは「我は世の光明なり。我に従う者は暗き中を歩まず、生命の光明を得るなり」と言われた。
- ・第三に将来の国民に取って欠くべからざるものは「愛」である。…今日愛の力は乏しく、現代文明の最大の欠陥は愛である。愛の欠乏のために人類は苦しんで居る。愛の精神に満ち溢れて、真心から奉仕を喜ぶ人物は、日本の将来のため何よりも必要である。…」

2)出村彰先生「再建校舎と3L」（百年史、第二章「中学部の振興」1989年4月『東北学院百年史』）

出村氏は、長く親しまれてきた3文字“Life Light Love”の出自は定かでないことに言及している。

- ・その上で、シュネーダー先生の上記の言葉を引用している。また、ベルリンの教会の礼拝堂の片隅に掲げられていた素朴な木炭画に触れ、その絵にはドイツ語文字「光」「命」「愛」が刻まれていたという。…あるいは、元来ドイツ系のアメリカ人であったシュネーダー先生が幼少期に耳にしたこの3文字を想起し、聖書的に深い意味を持つこれらの言葉を掲げたのかもしれないと語る。

3)水野和夫先生、随想「生命・光・愛」（『東北学院時報』No.300（1974年・昭和49年10月）

「…これらの言葉は、聖書の真髓を端的に表現しています。シュネーダー先生が示されたと聞きますがわれわれを導く、素晴らしい標語であると言えましょう。…これらは、神の御心の裡に生き、神の大いなる愛に生かされて、隣りびとを愛するというキリスト教の精神が、この言葉に含まれていると思います。シュネーダー院長は、「神をあがめ、人のため、世のために、奉仕する人物たれ」と、この言葉を通して常に呼びかけておられます。…」

4)竹井一夫先生、東北学院百年史〈5〉

「D.B. シュネーダー院長の3つのL - LIFE LIGHT LOVE -」

（『東北学院中高だより』No.9、1985年・昭和60年4月）

「…このライフ（生命）、ライト（光）、ラブ（愛）についての聖書的出典については、これまで明示されたものがなく、大正末期から昭和初期の同窓生に尋ねて見ても、明確ではなく、ヨハネ思想（ヨハネ福音書、ヨハネの手紙）、とりわけその中でも、

ヨハネ福音書3章16節－21節の「生命・光・愛」を想定していた」と述べ、前述のシュネーダー先生のコメントを紹介している。

- 5)小笠原政敏先生、聖書のことば「3L精神」(『東北学院時報』No.428(1986年・昭和61年4月))

「Life Light Loveの3Lは、その意味するところ実に豊かである。…生涯の終わりにおいても生命に溢れ、光に溢れ、愛に溢れるものでなければならない。シュネーダー先生は3L精神を「献身犠牲の精神」と言われた。生命と光であるキリストの愛が十字架における神の愛であるからである。」

- 6)大西晴樹先生、巻頭言「コロナ禍の中のLIFE LIGHT LOVE」

(「2021年度・宗教活動報告書」第3号、2022年11月)

大西氏は、宗教センターの役割について、キリスト教学校を構成する三要素である礼拝、授業、課外活動を深化・発展させるために立ち帰るべきは、「東北学院の教育の基本を言語化したLIFE LIGHT LOVEというスクールモットーである。このスクールモットーがコロナ禍の中、いかなる意味を持ち、いかなる可能性をもっているかを確認し、共有することが、大切である」と語られ、以下に記す通り、それらスクールモットーの現実的適用、あるいは内実化を試みておられる。

・LIFE：

生命の尊重、個人の尊厳については、コロナ禍で多くの人びとの生命や生活が奪われ、またロシアのウクライナへの軍事侵攻によって、その大切さを増している。神が創造した生命の尊重や、イエス・キリストの十字架上の死によって与えられた個人の尊厳をどのように伝えていくか。【神が創造した被造物、「生きとし生けるもの」、その「いのち」の尊重、個人の尊厳、キリストの十字架の贖罪死による人間一人ひとりの生命の重さ】

・LIGHT：

コロナ禍により対面授業や課外活動が制限されている中でも、オンラインを通じた知識の伝達がなされ、感染症に注意を払いながらも課外活動が遂行されている。困難を忍耐に変え、忍耐を練達に変え、人びとに希望の光を与えるような教育研究をどのように遂行していくか。【「…わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを(ローマ5:4-5)」➡「すべての人を照らすまことの光があって、世にきた(ヨハネ1:9・口語訳)」➡「希望の光」へと導く。】

・LOVE：

対面のボランティア活動や人的交流が制限される中、互いに愛し合うためにはどうしたらいいのか。弱者や犠牲者のことを思い、祈り、支え合うための関係構築の大切さをどのように伝え、実践していくのか。【「地の塩・世の光(マタイ

5:13-16)」、「思い煩うな (マタイ6:25-33)」、「黄金律 (マタイ7:12)」これらのみ言葉については、明日の朝拝で学びたい。】

④まとめに替えて (このテキストにおける3L精神…松田の個人的見解)

3文字 “Life Light Love” の出自については今なお定かでないが、これ以上追求してもあまり意味をなさないのではないだろうか。確かなことは、シュネーダー先生が、信仰者として幼き時分から聖書に親しみ、ヨハネ文書、特にヨハネ福音書3章16節以下の段落から、それぞれキリスト教の本質を端的に示す、「生命」「光」「愛」の言葉、および、そのテキストの意味する処を思い巡らす中で示されたと思われる「スクールモットー」で、東北学院に連なるすべての人々の「道しるべ」であり、今後もその役割を十分に果たし続けていくに違いない。

### Ⅲ. 関東学院が低迷の中で取り組み、目指したもの

＝キリスト教教育の視点で (2000年－2022年)

1. キリスト教教育の混迷の時代 (1990年代後半－2010年ごろまで)
  - 1) 1999年、松田が奉職した際、全学で「キリスト教学」必修の学部はなく、工学部工業化学科、電気電子工学科のみが必修。その後学部改組を契機に必修化が加速、ほぼ全学部が必修化。
  - 2) 大学3キャンパスにおいて、週4回、礼拝を行っていたが、出席状況は極めて低調であった。
  - 3) 宗教教育センター主催の諸行事を大学挙げての行事として位置付けることは困難であった。
  - 4) そんな中、まずは学院全体のチャプレン (大学中高および小学校長、こども園園長…総勢約15名) が、問題意識を共有して、chaplaincy について学び、使命について確認する時を持った。
  - 5) 大学の礼拝出席を促すため様々な工夫を凝らし、「キリスト教学」の一環として位置づけた。
  - 6) 大切な事柄を学院長、チャプレンが学内の小冊子 ‘We can do it!’、「いんまぬえる」「告知版」に投稿し、重要性の理解を得ようと努めた。(「聖書の言葉」の連載、建学の精神の意味等)
2. チャプレンたちの取り組みから生まれてきたもの (2010年－2017年)
  - 1) 2009年11月19日、関東学院創立125周年にあたり、宗教主任会議として「誓約」を発表した。これは、創立125周年に際して、宗教主任会議が自らの使命を確認し、明文化したものである。
  - 2) 2013年12月、文科省から現在の小中学校において「特別の教科 道徳」を授業科目として導入したいとの通達があり、関東学院宗教主任会議は、翌2014年6月聖書科

整備検討委員会を立ち上げ、約2年半の作業を経て、「関東学院聖書科整備への手引き」を発刊、全国の諸学校に1冊ずつ寄贈

3)「キリスト教人間学インスティテュート (ICH)」開設に向けて(グローバル教育を目指して)

・7年ほど前、当時の学長から未来ビジョン・プロジェクトとして「神学部」構想が提案された。

➡「神学部設置検討委員会」を立ち上げ、2年かけて、全国の神学部、キリスト教学科を有する大学への訪問調査。

➡委員会としての最終報告＝現段階では「神学部」設置は困難。

➡代替案検討に着手。

➡キリスト教精神に基づく成熟した人間を育てる「副専攻コース」あるいは「インスティテュート」。

➡「キリスト教人間学インスティテュート」:2022年度4月スタート、2023年度関内キャンパス開設で本格化。(2023年度4月現在、登録者15名、科目履修学生約30名)

\*本インスティテュートのコンセプト:

①校訓「人になれ 奉仕せよ」の内実化を目指す人間教育

②専門的知識を統合する(integrate)人間教育

③「生きる意味」を創出するための人間教育

④正しい意味での宗教理解 cf.日本人の宗教意識(無宗教はあり得るのか?)

#### IV. 結びに替えて＝キリスト教学校として関東学院が目指す方向性

①グローバル教育を志向する

…本来のグローバル教育とは、語学力を身に付けさせることによって国益に資する人材を育成し国際社会で通用する人間を育てることにとどまらず、普遍的真理を探究し、現代社会にあって、神と隣人に奉仕する社会の実現に向けて異質性や多様性を理解し受容する視点や感性を養うことであり、そのためにはリベラルアーツが有用である。

➡「リベラルアーツとは、未知の問題に取り組む勇気と判断の基礎を養う実践的学びである(ICU,伊藤、森島共著)」

②ポスト・コロナ時代の共生社会において「利己主義」から「利他主義」への転換を目指す

③混迷の時代にあつてこそ、普遍的な価値、変わることをない「本物」を追求する

④「平和を希求する」に留まらず、「平和を創り出す者(マタイ福音書5章9節)」として歩む

⑤「人になれ 奉仕せよ」の内実化に向けて一ボランティア活動の恒常化(グローバルイズムに対応するボランティアズムという枠組みへの移行)

➡できるだけ、早い段階で、学院として「ボランティア・センター」を立ち上げたい

➡「震災学」の先駆者なる貴大学から学ばせて頂きたい。

## 『東北学院と仙台教会』～学院創立とキリスト教会の分かれ難い関係～

日本基督教団仙台東一番丁教会牧師 瀬谷 寛先生

### 1. 自己紹介

2016年4月、日本基督教団仙台東一番丁教会牧師に牧師として遣わされる。

東北大学片平キャンパス北門前。仙台東一番丁教会は、東北学院の校祖の一人である押川方義（おしかわ まさよし）が創立した教会。創立当初は、「仙台教会」と呼ばれていた。

わたしは東北学院と宮城学院の理事を務めさせていただいている。キリスト教会の牧師が、なぜ学校に関わっているのか。東北学院と教会の関係について考えてみたい。

### 2. 押川方義の前半生と仙台教会

1850年1月17日（旧暦嘉永2年12月5日）、伊予松山藩土橋本宅次の三男として生まれた（ペリーの浦賀来航の3年前）。

1961年ころ、押川方至作右衛門の養子となる。

1969年、藩内から選抜され、維新直後の江戸に留学、箕作塾三叉学舎で英学の修業。

1871年、横浜に移り、宣教師バラの私塾に参加、S.R. ブラウンから英学を学び、バラから英学とともに基督教を学ぶ。外国人でありながらバラは、「わが日本を救い給え」と熱く祈った。その姿勢に押川は感化される。

1872年3月10日、押川方義ら9名が横浜でJ.H. バラから洗礼を受ける。この日、日本最初のプロテスタントキリスト教会、「日本基督公会」が誕生。

1875年、新潟で医療伝道活動を行っていた、T.A. パームの応援要請に、押川は「然らば吾輩が行くべし」と申し出、新潟に向かう。パームのもとで按手を受けて伝道者となる。

1880年7月、新潟大火発生。パームの医療伝道活動が一時頓挫。パームから洗礼を受けて伝道者となった石巻出身の吉田亀太郎とともに、東北地方の伝道を志す。

1880年9月、押川方義は、吉田亀太郎とともに仙台に向かう。10月「基督教講義所」の看板を掲げて、キリスト教の伝道を正式に開始。

1881年5月1日、最初の受洗者二名が与えられ、「仙台教会」（現在の仙台東一番丁教会）が創立。その後、古川、岩沼、石巻に相次いで教会を設立。

### 3. 押川方義とホーイと「仙台神学校」

1885年、当時のプロテスタント教会が属していた「日本基督一致教会」に属し、その地区組織「仙台中会」を組織し、押川はその議長となる。

1885年12月、「合衆国改革派教会」から派遣された、27歳のウィリアム E. ホーイと押川は、ホーイ来日三日後にバラ宅で会う。押川の東北伝道についての抱負を聞いてホーイは心動かされる。

1886年1月、すぐに当時人口7万人の都市仙台を視察。その報告書には、「仙台は重要な、そして将来性豊かな地方の中心都市で、新しい時代の胎動をひしひしと感じ始めている町です。〔中略〕そこでは青年期に特有の力強く精気に富み、勇気に溢れた何者かが、内部から生まれつつあることが感じられます。この町は現在も大いに発展を遂げております。いずれは帝国政府の中で大きな影響力を持つに至るでありましょう」と報告されている。ホーイは、仙台城大手門に至る大橋のたもとを拠点に、本格的な伝道活動を始める。向学心に溢れた青年が集まり始めた。ホーイは、「男子校を建てる好機が目の前にあることをすぐに感知」、押川は、東北伝道の担い手を独自に育てるための学校を求めていた。

1886年5月、「五月以来、四人の青年が…勉強を始めている」というホーイの報告文章を基に、5月15日を「仙台神学校」の創立記念、と後に定める。しかしまだ、この時点では、「合衆国改革派教会」からの学校設立についての正式の援助の約束は得られなかった。ホーイは、福音の伝道者となることを希望している青年について、一年間生活の面倒をみる約束をする。

1886年7月、合衆国改革派の日本のホーイを含む5人の宣教師団が、拠点を東京から仙台に移す決議をする。これにより、「合衆国改革派教会」の後ろ盾（援助）を得て、東北の伝道が進められていくことになる。

1886年9月、宮城女学校〔現宮城学院〕創立。

1887年7月、ホーイの手紙に7人の生徒の名。

1888年春、20人の生徒。

1888年8月、仙台教会がすでに購入し、移転していた南町通と東二番丁通の角にあった東本願寺敷地の一部を、ホーイが自費で購入、教室を兼ねた寄宿舎の建設開始。翌2月完成。

1891年7月、仙台神学校理事会は、私立学校設置願を提出、9月受理。校名が「東北学院」に。伝道者養成機関から、一般教育機関となる。

#### 4-1. まとめ

東北学院は、合衆国改革派教会の経済的な後ろ盾（援助）を得て（あるいは前提として）、設立された。それはアメリカの教会の信徒たちの献げ物（献金）によることである。よく分からない東アジアに、キリスト教精神に基づく学校ができることについて、大きな期待と希望を込めて献げられた。そういう人たちがいたこと、その人たちが気持ちがあったことは、確かに、時代は激しく変わり、今日において、東北学院に期待されていることが、設立当初からは大きく変わっていると看做しても、決して忘れてはならない。それは、東北学院

の存立に関わることである。

#### 4-2. まとめ(2) 今も続く学院創立とキリスト教会の分かち難い関係

##### その1

東北学院の初期の時代に、経済的、金銭的にキリスト教会が東北学院を支えた歴史があった、ということだけではない。何よりも、東北学院の精神を支えていたのがキリスト教会であったと思う。

東北学院として大切に言い表しているのが3L精神。

LIFE (命)、LIGHT (光)、LOVE (愛)。これはキリスト教会でも大切にしていること。わたしがここで強調したいことは、この精神は、東北学院であるわたしたちが理想とする抽象的な目標、というのではなく、「イエス・キリスト」のことを言っている、ということ。

「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ14:6)

「わたしは世の光である。わたしに従う者は…、命の光を持つ」。(ヨハネ8:12)

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」。(ヨハネ15:13)

特に最後の愛が重要。この自分を殺してまでも相手を生かすイエス・キリストの愛によってわたしたちも愛され、赦され、生かされ、わたしたちも命、光、愛となれる。

##### その2

仙台神学校として始まった東北学院。神のことを教え、聖書を教える学校から始まった。それは、3L精神を教えることであり、その源がイエス・キリストであることを教え伝える学校であった。

ここで学んだ人たちは、当時、押川方義が各地に建てたキリスト教会に仕える牧師・伝道者として遣わされていった。仙台神学校は伝道者養成学校であった。

その伝統は、今でも続いている。ずっと以前から、聖書の授業があり、キリスト教に基づく教育がなされている。神学部、文学部キリスト教学科で、キリスト教を専門に学ぶ学科が備えられていた。今は、文学部総合人文学科としてキリスト教を専門に学ぶ伝統は生きている。

また、神を拝む礼拝が献げられ、土樋、泉、多賀城の三キャンパスがあった頃には、それぞれでほぼ毎日礼拝が献げられていた。その礼拝を近隣の教会の牧師たちがお手伝いさせていただいている。仙台神学校から引きついで3L精神、キリストの愛を伝えるために。

東北学院の源流であるキリストの愛を伝える伝道者になりたい、と今から考える人がこの中に現れるかもしれない。東北学院には現在は神学部はないが、現在も密接に関係している神学部を持つ学校がある。東京神学大学。現在の伝道者養成のための単科大学。

東北学院に在学した人は、手厚い奨学金を受けることができる。もちろん、他の仕方でも伝道者になる方法はあるが、心の片隅に、覚えておいていただきたい。

東北学院から、キリスト教（キリスト教会とのつながり）がなくなったらどうなるか。東北学院は、東北学院ではなくなる。

## 発題 2

# 『キリスト教教育～東北学院榴ヶ岡高校の実践例～』

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順先生

## 1. 榴ヶ岡高等学校のキリスト教教育方針（資料1）

- 1) 建学の精神、教育方針、榴ヶ岡高等学校の教育目標に基づいて実施
- 2) 2023年度 キリスト教教育の目標 「共同体としての学校」
- 3) 2023年度 年間聖句  
「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」（ヨハネ8章32節）  
☞ 多賀城キャンパス図書館の聖句を榴ヶ岡高校へ移設

## 2. 建学の精神の理解のために

- 1) 建学の精神とは？（資料2）  
「私立学校には必ずある」 ☞ 「学校のビジョンを示している」  
「幻がなければ民は墮落する。」（箴言29章18節）
- 2) 言葉の意味を考える（資料2）  
〔例〕 人格の完成 聖書の示す神に対する畏敬の念 文化の発展と福祉に貢献する人材
- 3) 東北学院の歴史を知る（資料3）

キリスト教の牧師押川方義は1886年に、アメリカ・ドイツ改革派教会の宣教師 W・E・ホーイと協力して、キリスト教の伝道者養成の目的をもって、仙台木町通に「仙台神学校」を開設した。1891年に校名を「東北学院」に改め…

（「東北学院の歩み」榴ヶ岡高校生徒手帳より）

- 4) 三校祖の言葉（資料4）  
「そこに集う生徒と、その教育を担当する教職員が、その精神を十分に理解し、創立者の抱いた理想と、それを受け継いで来た者の、えがいたビジョンとを、今の時代にいかに具現し、それに生きるか」  
（「榴ヶ岡のビジョンと構想」月浦利雄校長（当時）1971年「東北学院時報」より）  
※シュネーダー「我は福音を恥とせず」  
東北学院史資料センター <https://www.tohoku-gakuin.jp/archives/publication.html>
- 5) 建学の精神を表す聖句 ☞ 東北学院が時代の節目に掲げてきた聖句（資料5）  
東北学院は『聖書』（神の言葉）に立つ学校

6) キリスト教を知る…榴ヶ岡高校聖書科カリキュラム (『聖書』の知識)

1 年次 建学の精神、教育の方針、東北学院の歴史、3L 精神、イエスの生涯～ペンテコステ

2 学年 旧約聖書 (～イスラエルの歴史)

3 学年 旧約聖書 (預言者)、新約聖書

総合進学コース・TG 聖書 キリスト教史 ☞ TG 推薦希望者必修科目

※全学年 全コース同一内容 (同一プリント、同一パワーポイント)

7) 礼拝

「礼拝」は東北学院教育の拠り所です。また、「礼拝」は本学院教育の基礎であり、建学の精神の拠り所であるキリスト教が最も明らかに体験できるものです。

(「礼拝について」榴ヶ岡高校生徒手帳より)

①キリスト教＝礼拝する共同体

☞ キリスト教会が成立して最初にしたこと＝礼拝 (使徒言行録2章42節)

②キリスト教学校＝礼拝する学校

③礼拝＝学校行事 (東北学院教育の基本方針)

☞ 生徒・教職員が共に礼拝を捧げる

学校礼拝は、目の見えない世界に対して、目を注ぐ時です。否、目の見えない世界に対して、目が開かれる時です。目に見えない神、永遠者の前に立つことで、私たちの傲慢が打ち砕かれて、私たちの生きる意味や、互いの交わりの根拠がどこにあるか、考えさせられる時なのです。

62回生 (卒業生) の言葉

「礼拝に大事なものは、我々がどのようにして礼拝に臨み神様と向き合うという態度や心ではないでしょうか。礼拝は、慌ただしく活気に溢れた若人である我々のために、神様が用意してくださった時間なのだと思います。」

8) キリスト教教育＝「聖書」の授業と礼拝との両輪

3. キリスト教教育の担い手は？

1) 全教職員があたる

2) キリスト教教育の目標を全教職員で共有 ☞ 建学の精神に基づく教育

☞ 「教員が大切にしないものを学生・生徒は大切にしない」

「キリスト教に基づく」とは、学校がキリスト教会とのつながりを持ち、キリスト教学校で働く教職員が聖書を読んだり、説教を聴いたりしながらキリスト教に理解をもち、礼拝、教科、課外等の教育活動が実践されていなければ、異教の風土においては、国家主義道徳や無宗教や唯物論によって、淘汰されていくのではないだろうか。

(大西晴樹東北学院院長 2022年 キリスト教学校教育同盟  
東北・北海道地区新任教師研修会 講演より)

<資料1> 2023年度キリスト教教育方針

**目 録**

キリスト教主義に基づき人権を尊重する

①個人愛の発展と感謝の心を育む      ②聴く・祈る・楽しむ学校へ(礼拝を大切にす学校へ)

**東北学院建学の精神**

聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう個人への愛の精神を抱き、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成

**東北学院教育方針**

正徳の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変の事として実施

**2023年度年間主題**

**「共同体としての学校」**

**2023年度年間宣言**

**自由**

**あなたたちは真徳を知り、真徳はあなたたちを自由にする。**

(旧ハルニヒ福音書8章32節)

**2023年度キリスト教教育方針**

1. 共同体としての学校

**1)共に礼拝する学校**

礼拝は学校行事として挙げられています。また礼拝は東北学院の教育の基礎(土台)であり、建学の精神のよりどころであるキリスト教を最も明らかに体験できる場です。学校生活は礼拝から始まります。礼拝では讃美歌を歌い、聖書の御言葉を聞き、自分の心と向き合い、自分のこれからの生き方を考えます。

**2)共に学ぶ学校**

正課必修としての聖書の授業があります。聖書が教えているのは「神の愛を用いて共に生きること」です。聖書の授業を通して「神の愛を用いて共に生きる」とはどんなことかを共に学び、学校生活等で実践していきます。

2. 個人への愛の実践

東北学院の建学の精神の一つに、「個人への愛」があります。聖書には、「個人を自分のように愛しなさい」とあります。「自分を愛する」とは、神から愛されていることに気づくことです。そして私たち一人ひとりに与えられている神の愛を用いて、「彼のため、人のために」奉仕する人材にならなければならないと考えています。

3. 感謝の心を育む

宗教教育とは、「感謝の心を育てる」ことです。自分のために何かしてくれただけを当たり前と思わず、常に感謝の心を持ってください。みなさんの高校生活は多くの人の支えと祈りによって成り立っています。どんなことにも「ありがとうごさいます」と言える人になっていただきたいと思っています。

(2023年度「人学」のしおりより)

<資料2>

2023年度 1年進学科 授業プリント No.2 東北学院の「建学の精神」と「教育の基本方針」

1年( )組 No.( ) 氏名( )

**建学の精神とは?**

1) ( ) 学校に必ずある ⇒ ( ) 学校にはない

2) 学校の ( ) を示している  
 聖書 29 章 18 節 (旧 1029 ページ)  
 「( ) がなければ我は墮落する。」

**東北学院の建学の精神** ⇒ 「生徒手帳」4ページ

東北学院の三校祖、( )、( )、( ) は、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「( )」の「( )」に基づく「( )」と「( )」の教育にあるとした。その教育は、「( )」と「( )」にならう「( )」を培い、「( )」の育成を目指すものである。

1. 三校祖 ⇒ 詳しくは授業プリント No.3「東北学院の歴史」で学びます。



(左から 澤川芳隆/W. E. ホーイ/D. B. ショーナー)

2. 宗教改革の「福音主義キリスト教」の精神

**1) 宗教改革者**

①トイフ( ) ⇒ ( ) 年

②メソ・ジュネーブ( ) ⇒ 改革派  
 改革派「( )」よって常に新しくされる教会 ⇒ 東北学院の歴史  
 アメリカ( ) 教会

**2) プロテスタント** ⇒ ( )  
 (例) ( )

**3) 宗教改革の原則**

①聞き従うべき教え: ( ) のみ (=神の言葉) > 人の教え

②教いの根拠: ( ) のみ = ( ) のみ ⇒ ( ) の移動

<神の視点>

<人間の視点>

【ギリシア語】 *αγάπη*  
 読み方 ( )

↓ ( )  
 □

↑ ( )  
 □

**4) 個人の尊厳の重視**

東北学院は一人一人の ( ) を大切にします

イザヤ書 43 章 4 節 (旧 1130 ページ)  
 「わたしの ( ) にあなたは ( )、( )  
 わたしはあなたを ( ) .....」

**5) 人格の完成**

自分の行動が ( ) を作る

( )  
 ↑  
 ( )

**6) 東北学院が目指す教育とは?**

①聖書の示す神に対する畏敬の念 ⇒ 具体的には ( ) ⇒ ( ) 行事  
 ⇒ 聴く・祈る、讃美する ⇒ ( ) を大切にす学校を目指す

②イエス・キリストにならう個人への愛の精神を培う

A) ( ) ことに気づく ⇒ ( ) こと  
 B) ( ) とする  
 C) ( ) ⇒ ( ) を用いて ( )

③文化の発展と福祉に貢献する ⇒ 必要な ( ) を身につける



**3. D・B・シユネーダー**

1) 『生命、光明、愛』 (1923年)

国民として光輝ある日本の将来に貢献せんがためには、ここに掲げた三つのものを持たなければならないと思う。

第一は生命、私がここで言う生命は、普通の生命、すなわち肉体の生命ではない、肉体的生命は早晩現世に負けて滅んで失せる附いものであって、真の生命ではない、真の生命は神から来るものである。

イエス・キリストによりて現れた生命である。心の生まれ変わった生命である。聖書にある「永遠の生命」である。この永遠の生命によりて世界がまことに新たになるのである。この永久の勝利を占める新生命によって人類は偉大なる希望を与えられる。正義も愛も奉仕もこの新生命によって生けるものとなって来る。人類最大の幸福は、この新生命から湧いて来るこの生命を所有し、また与えることは日本国民として、キリスト者の負う重大な使命の一つである。

また日本の将来に光明の必要がある。すなわち知識の光明である。……私のここで言うのは普通の知識ではなく、人生に於いて最も必要な宇宙の創造者、支配者につき、人生の真の道、真の目的につきまた人生の運命についての知識を指すのである。イエス・キリストは「我は世の光明なり、我に従ふ者は暗きの中を歩かず、生命の光明を得るなり」と言われた。この光明を自己に所有する人格者となり、これを広く世に伝え、永久に輝くように努める必要がある。

第三に将来の国民にとって欠くべからざるものは「愛」である。……我らは、愛は世界において 最大のものであると認めざるばかりではなく、又同時に世界最大の要求であること認めねばならぬ。今日愛の力は真に乏しく、現代文明の最大の欠陥は愛である。愛の欠乏のために人類は苦しんでいる。愛の精神に満ち溢れて、真心から奉仕を喜ぶ人物は、日本の将来のため何よりも必要である。

以上述べてきたところの「生命」と「光明」と「愛」とは、将来の日本国民として、ぜひ備えねばならぬ大切な資格である。これを備えるならば、たんに国民としてのみならず人類の一人として光輝ある生涯を送ることが出来るであろう。

2) "They are christian in their thinking and living."  
「東北学院の卒業生は考え方においても生き方においてもキリスト教的である。」

**<資料5> 東北学院の建学の精神を表す聖句**

1) 東北学院のスクールモットー 東北学院中学校高等学校 LIFE LIGHT LOVE



2) 東北学院の最初の校舎内の礼拝堂に掲げられた聖句 敬神愛人



3) シユネーダー記念図書館(土曜キャンパス) エホバを畏れるは知識の本なり (箴言 1:7)



4) 多賀城キャンパス図書館 真理は敢て自由に身を任せずべし。(コリネ 2:12)



5) 90周年記念館(土曜キャンパス) 知識は人を縛らせ 愛は人の縛を解める。(1コリ 13)



6) 泉キャンパス 道はわが光 わが教いなり (詩編 27:1)



7) コーイ記念館(土曜キャンパス) 地の塩 世の光 (マタイ 5:13, 14)



### 発題3

## 『東北学院宗教センターの発足とその活動』

宗教センター主任 原田 浩司先生

### はじめに

- ・東北学院宗教センター、ご存知でしょうか？ ～宗教センターに付きまとう「いつの間にか」感？

院長直轄・直属の二つの「センター」の一つ

- ①東北学院史資料センター ②東北学院宗教センター

どちらも「法人」としての東北学院の活動のため庶務部の管轄となる。

### 1. 2020年度の発足と新型コロナの到来

- ・「ブランディング事業」を継続し、東北における「唯一無二」の本学の魅力を発展させるセンター
- ・2020年4月に発足したものの、日本政府による緊急事態宣言の発出と、それに伴う活動制限
- ・東北学院宗教センターの規定・規約より  
構成（2023年度）：所長（院長）、主任（大学宗教部長 ※兼任の必要はない）  
チャプレン（非専任教員）、主事（非専任教員）☞ 2022年度まで不在  
所員（各設置校の宗教主任：専任教員）、職員（嘱託1人）

### 2. 建学の精神に基づく「ALL 東北学院」の活動

「東北学院」の各設置校、①幼稚園、②中学校、③高等学校（×2）、④大学校、⑤大学院  
☞ 「ALL 東北学院 One Team」の活動  
特に、前期・後期の「祈祷会」（祈りによる相互交流）  
聖書の言葉とその説き明かし、各設置校の「キリスト教教育」の課題の共有、祈祷会

### 3. 建学の精神に基づく活動の記録 定期刊行物の発行

- ①「水曜通信」～月刊紙
- ②「いのちひかりあい」～季刊紙
- ③ 礼拝「説教集」～年に一度刊行
- ④ 年次活動報告書～年に一度刊行

#### 4. 2023年度4月より TGCF（東北学院キリスト教フェローシップの略称）始動！

青山学院の学生課外活動団体「ACF（Aoyama Christian Fellowship）」をモデルに、五橋キャンパス開学に合わせて、東北学院に「TGCF（Tohoku Gakuin Christian Fellowship）」を計画。東北学院は「T（Tohoku）CF」ではなく「TG・C・F」 TとGは切り離せない、繋がって一つの「TG」ブランド

TGCFは、おもに本学の学生たちが「建学の精神」を「座学」だけでなく、課外活動としてアクティヴに参加・体験することで体得するための、学生たちが主体となる活動を支援。

2つの活動 毎週木曜日午後の課外活動時間帯に実施

- ①ミュージック・サービス(Evening Music Service)、②イングリッシュ・カフェ(English Cafe)  
「現代的な」讃美歌を歌う、音楽を中心にした礼拝 海外宣教師との全て英語による国際交流会

#### むすびに

- ・本日からは「東北学院宗教センター、ご存知ですね！」となるよう、大学の教職員や学生をはじめ、全設置校にその認知度を高め、活動を浸透させていきたい。

第67回 東北学院大学教職員修養会  
全体協議 発題3

## 東北学院宗教センター 発足とその活動

担当：原田浩司  
(大学宗教部長、宗教センター主任)

### はじめに

単刀直入にお伺いします。  
「東北学院宗教センター」をご存知ですか？  
「なんとなく・・・」

東北学院宗教センターは**2020年度に発足**した、本学院長直轄・直属の、2つのセンターの一つ。

①東北学院史資料センター (Tohoku Gakuin Archive Center)  
②東北学院宗教センター (Tohoku Gakuin Christian Center)

どちらも「法人」としての東北学院の活動のため庶務部の管轄となる。庶務部以外の部署の方は「なんとなく...」かも。

### 【東北学院宗教センターについて】

東北学院宗教センターは、東北学院の幼稚園、中学校、高等学校、大学全生のキリスト教活動の基盤となります。それぞれが地埋的に離れ、学校の特色も異なる各施設が、本センターを通じて交流を深め、活動やイベントなどの印刷物を共有することで、聖書聖歌からいつか育まれる土壌を目指しています。

また講義、生徒、学生と共に、保護者の皆様にも、親しやすく、分かりやすく東北学院のキリスト教活動をご紹介したいと考えています。皆様からの御意見や御指示をお待ちしています。

なお宗教センターは、大学の土曜キャンパス礼拝堂入口と五橋キャンパス礼拝堂脇に設置されていますのでお立ち寄りください。キリスト教や礼拝に関する問い合わせも自由にお尋ねくださいますように。

宗教センター発行の「キリスト教活動のしおり」に掲載

### 東北学院宗教センター

#### 宗教センターとは？

東北学院では毎日の礼拝や聖書の学び、さまざまな宗教活動を大切にしています。宗教センターはこのキリスト教の教えを通して皆さんが教養を身につけ、人間性を成長させるお手伝いをしたいと思っています。

キリスト教についていろいろ知りたい人、どんなところなのか興味がある人、教会や福祉活動に興味がある人、どんな理由でもかまいません。どうぞお気軽に宗教センターに立ち寄ってみてください。

#### 確かにHPの情報からは「なんとなく...」も頷ける

### センター主任のご挨拶 HPより

各位、東北学院宗教センター主任を務めています。宗教センターは幼稚園から大学校までの東北学院の各校のキリスト教の活動を支え、活性化するために、2020年4月に発足しました。それ以来、センター主催の祈禱会を各校で開催し、各校相互の交流を深めながら、「東北学院」全体のキリスト教活動と理解を一つに結ぶ契機となるべく活動しています。特にスクールネットである「LIFE LIGHT LOVE」の精神に則り、東北学院の各校がよりキリスト教の教養と活動を行えるようサポートすることが、この宗教センターの大きな役割です。

宗教センターでは、各学校を包括した出版物である「いのちのひかりあひ」をはじめ、礼拝で読まれた説教集、「キリスト教活動のしおり」、また、季刊紙である「チャペルニュース」や「水曜通信」などを企画、執筆、編集、発行をしています。これら刊行物は紙媒体としてだけでなく、このホームページにもデジタル版が掲載されています。是非ご覧ください。本学のキリスト教活動を知る一助となりますようお願いいたします。また、掲載された「水曜公開礼拝」の聖歌および礼拝活動の編曲や弦楽、「教職員聖歌隊」の活動、さらには五橋キャンパスの隣地に併せてはじまる「東北学院キリスト教フェロウシップ」(Tohoku Gakuin Christian Fellowship 略称：TGCF)の活動なども実施しています。

### 1. 宗教センターの発足 (2020)

■ タイミングの是非

発足した途端、**新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行**に伴い、日本政府 (当時：故安倍晋三首相) が**緊急事態宣言**を発出。  
 ⇒ 大学での**対面での活動の停止**とリモート化により、宗教センターのスタートはまさに出鼻を挫かれた。

**2020年度の主要な活動**  
 「ブランディング事業 (東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業)」の継続し、大学から**ALL 東北学院**へ展開

- ・月に一度の水曜公開礼拝の継続 (動画配信) と水曜通信の継続
- ・ランカスター神学校との交流事業の継続
- ・大学宗教部が扱ってきた刊行物 (説教集・報告書、等) を移管

### 宗教センターの構成について

・東北学院宗教センターの規定・規約より  
 構成(2023年度現在)：所長 (院長)  
 主任 (大学宗教部長 ※兼任の必要はない)  
 チャプレン (嘱託) ⇒ 2021年度まで不在  
 ※22年度より前宗教部長の野村信先生がチャプレンに就任  
 主事 ⇒ 2022年度まで不在  
 ※23年度より日本基督教団仙台南伝道所の佐藤由子牧師が就任  
 所員 (各設置校の宗教主任：専任教員)  
 理事長特別補佐 (宗教センター) ※22年度まで 経木剛副先生 (ブランディング事業の申請者・責任者)  
 職員 (嘱託1人)

### 宗教センターの取り組み

#### ①各設置校との祈禱会

2021年度より宗教センターの所長、主任、理事長特別補佐、職員が各設置校を訪問し、懇談会・祈禱会を開始。  
 前期・後期とそれぞれ開催 (2回/年)。





### 宗教センターの取り組み

#### ②クリスマス点灯式

2021年度に東北学院の各設置校が  
 開催日時を合わせて、点灯式を実施。



### 2022年度





## 4月に行われたミュージック・サービス

**TGCF ミュージックサービス**

**4/27 16:00-16:30**

場所 土樋キャンパス  
ホーイ記念館ホール(地下1階)

※学生司会・学生メッセージ、学生バンドとTGCF聖歌隊が  
ワークショップ・讃美歌をリードしながら共に歌います。  
※16:30頃からは、コラトリエ・リエゾン(ホーイ1階)にて  
カフェタイム・交わりがあります。途中参加も歓迎です。

「ホーイ記念館ホール」  
ホーイ記念館ホールは、ホーイ記念館の地下1階にあり、ホーイ記念館のホールとして使われています。

「ホーイ記念館ホール」  
ホーイ記念館ホールは、ホーイ記念館の地下1階にあり、ホーイ記念館のホールとして使われています。

今年度からスタートしたTGCFは、「東北学院キリスト教フェローシップ(英語名称: Tohoku Gakuin Christian Fellowship)」の略称で、学生たちによる自主的なキリスト教活動をサポートする取り組みです。

この度開催する「TGCFミュージックサービス」は、学生バンドと聖歌隊のリードでワークショップや讃美歌と一緒に歌う礼拝です。司会やお話しも学生が行います。ワークショップはロックやポップの影響を受けた親しみやすい讃美歌で、ギターやピアノ、ドラムの演奏に合わせて歌います。一緒に歌ってみたい方、聖歌隊の美しい歌声を聴きたい方、どなたでも大歓迎です。

ミュージックサービスの後は、コラトリエ・リエゾンに移動してカフェタイム(交流会)が開かれます。学部や学年を越えて色々な人と話してみたい方や新しい友達を作りたみたい方、ぜひご参加ください。カフェタイムからの参加も歓迎します。



## 6月より イングリッシュ・カフェ

6月1日(木)に宗教センター主催の英会話イベント「TGCF English Café」を土樋キャンパスで開催します。

このイベントは「カフェでお茶を飲みながら、楽しく仲間とおしゃべりをする」をコンセプトに、ネイティブスピーカーの宣教師の先生方と英語でおしゃべりを楽しむことができます。宣教師の先生方は日本語も話せるので、英語に自信がなくても大丈夫です。英会話力を上げた方や英語の学習に役立てたい方、海外旅行や留学を予定している方など、どなたでも大歓迎です。ご参加お待ちしております！

「TGCF English Café」は毎月第1木曜日に開催を予定しています。今回予定が合わない方は、7月以降にぜひご参加ください。



## 7月 イングリッシュ・カフェ

コラトリエが、ちょっとした「外国」に!

- ・コミュニケーションを楽しむ英語プログラム
- ・様々な国から来ている宣教師の方がゲスト
- ・学部・学年を越えて約40名が出席

木曜日は、TGクリスチャンフェローシップへ!

宣教師の方々とは7月13日音楽礼拝でもお話できます。皆様参加をお待ちしています。

(本学イベントに関する最新ニュースより)



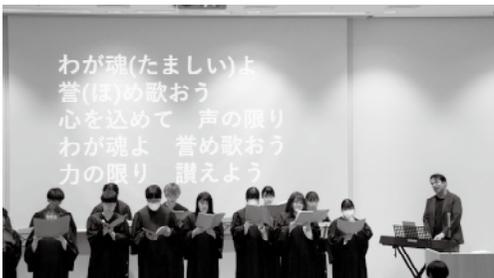
## 6月 ミュージック・サービス

6月15日(木)に宗教センター主催の「TGCFミュージックサービス」を土曜キャンパスで開催します。

TGCFミュージックサービスは、学生による司会のもと**学生バンド**と**聖歌隊**がリードしながら**ワーシップソング**や**讃美歌**と一緒に**歌う**礼拝です。ワーシップソングはロックやポップの影響を受けた親しみやすい讃美歌です。一緒に歌ってみたい方や聖歌隊の美しい歌声を聴きたい方など、どなたでも大歓迎です。

ミュージックサービスの後は、ホーイ記念館1階のコラトリエ・リエゾンに移動して**カフェタイム**(交流会)を開きます。学部、学年を越えて色々な人と話してみたい方、新しい友達を作りたい方はぜひご参加ください。カフェタイムからの参加も歓迎します。

ミュージックサービス、カフェタイムは毎月第3木曜日に開催予定です。今回予定が合わない方も次回の参加をお待ちしています。





**7月：TGCF ミュージック サービス**

前期最後のイベントです！

- ・宣教師チームの英語賛美
- ・聖歌隊による賛美
- ・学生チームのポップな賛美
- ・礼拝後は、コラトリエで交流会

木曜日はTGクリスマスフェローシップへ！

(公式HPイベント最新情報より)



**2023年 TGCF**

**ゴスペルワークショップ**

第1回 9月21日

第2回 10月26日

**9月以降のTGCF活動予定**

**プロのゴスペルシンガーによるゴスペルワークショップの開催**

実際の宗教センターにおける2023年度のTGCFの活動予算は年間で「10万円」しかないのが実情。  
 イングリッシュ・カフェの国際交流の活動に参加していただく在日外国人宣教師の皆さんは、謝礼金の手当でTGCFの活動に協力していただいています。  
 TGCFの活動は東北学院高校にもしており、第一志望の国立大学の受験に失敗し、失意の中で本学に進学したという学院高校の出身で、TGCFの活動に参加した学生が、活き活きと「本学に進学してよかった」と報告してくれたと、今年の前期の祈禱会で寂ながらに語ってくれました。

**むすびに**

2020年度から「東北学院宗教センター」がスタート！  
 本日から「東北学院宗教センター、ご存知です！」となるよう、大学の教職員や学生をはじめ、全設置校にも、その認知度を高め、活動を浸透し、定着させていく必要があります。  
 本日の修養会は特に、各設置校からも、試験的に参加を促して開催されるため、東北学院の「建学の精神」およびスクールモットーである「LIFE LIGHT LOVE」のキリスト教の理念がしっかりと東北学院の各学校に行き渡るよう、東北学院宗教センターの活動へのご理解と御協力をお願いいたします。  
 TGCF活動への予算もお願いします。

## 朝 拝

司会 渡邊 蘭子  
説教 松田 和憲  
奏楽 今井奈緒子

前 奏

讃美歌 30番

聖 書 新約聖書 (p6～) マタイによる福音書  
第5章13～16節、第6章25～34節、第7章12節

説 教 『山上の説教』から学ぶ

祈 禱

頌 栄 541番

後 奏

マタイによる福音書

第5章13～16節

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられようか。もはや、塩としての力を失い、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、灯をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家にあるすべてのものを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである。」

第6章25～34節

「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また体のことで何を着ようかと思ひ煩うな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥を見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。まして、あなたがたは、鳥よりも優れた者ではないか。あなたがたのうちの誰が、思ひ煩ったからといって、寿命を僅かでも延ばすことができようか。なぜ、衣服のことで思ひ煩うのか。野の花がどのように育つのか、よく学びなさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほども着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、あなたがたは、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思ひ煩ってはならない。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみな、あなたがたに必要なことをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。

だから、明日のことを思ひ煩ってはならない。明日のことは明日自らが思ひ煩う。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

第7章12節

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

## 『山上の説教』から学ぶ

関東学院学院長 松田 和憲

### はじめに

「山上の説教」とは…イエス自身が山の上で、多くの群衆を前にして語った大説教（5章～7章）の形をとっているが実際はイエスが色々な所で語ったことをまとめた「語録集」だと言われている。中には理想の倫理、実行不可能と目される倫理があり、難解な箇所もある。しかし全般的にはキリスト者の「新しい生き方」へのチャレンジとなる優れた勧めが多い。この「説教」を理解するポイントは、「十字架にかかれ、我々の罪を担われる」イエスが語っておられるということであり、聴く者も「罪許され、新しくされた者」として聞かねばならない。足りない部分を主イエスが補ってくださる、そこに慰めと希望がある。

### 1) 「あなたがたは地の塩、世の光である」(マタイ5章13-16節)

イエスが語ったこの「教え」の第一のポイントは、イエスは、聴衆に対し「あなたがたは地の塩である」「あなたがたは世の光である」と語りかけた。「塩」も「光」も私たちに必要な生活必需品であり、「あなたがたは「塩」や「光」のように、この世にあっては無くしてはならない大切な存在であると語っている。注目すべきは、イエスはここで「あなたがたは塩のようになれ、光のようになれ」とは言っていない点である。聖書の舞台は2000年の昔のパレスチナですが、当時、イエスのそばに集まってきた人々は、名もなく貧しいユダヤ人達で、地中海全体がローマ帝国の支配のもと、また、その属国であるユダヤではヘロデの圧政のもと、精神的・経済的に寄る辺ない生活を強いられた人々で、自分には自信が持てず、誰も自分を認めてくれないと思っていた人々であった。そんな彼らにイエスは「あなたがたは既に『地の塩』であり、既に『世の光』でもある」と語られた。居合わせた人々にとってどんなに大きな励ましになったことか。

第二のポイントがこの「教え」の中心的なことであるが、主イエスは「あなたがたは地の塩である」と同時に「世の光でもある」と語っているということ、これら2つの事柄を切り離してしまうと、本来の意味がぼやけてしまう。ここでは、「塩」「光」の特性を考えたい。まず「塩」は自らの姿を隠し、中に入り込んでいく性質（浸透性）、「光」は周りをくまなく照らし、存在を広く知らしめる（顕現性）ということになる。さて、ここでイエスが言う「あなたがたは地の塩である」と共に「世の光でもある」というメッセージを、我々の現実でどう聞いたらよいのか。もし、私達が「塩」としての側面だけを強調するならば、人々の交わりの中に溶け込んでいこうとするあまり、自分を押し殺し、主体性を無くしてしまわないだろうか。逆に、「光」の持つ特性だけを強調するならば、自己主張が強く、他者と歩調を合わせずに、自己中心、わがまま、放縦に走ってしまう。イエスは、ここで「塩」「光」、両者

は対照的な反対概念であり、イエスは、「地の塩（浸透性）」「世の光（顕現性）」、これら両者の緊張関係を保ちながら、それぞれを活かすバランスの取れた生き方、他者との関わり合い方、そこにこそ成熟した人間の在り方があると言いたかったのではないか。それならば、具体的に私達が「地の塩」「世の光」として生きる生き方とはどんな生き方を指すのか。数年前、ある学生が、このテキストについて書いたレポートを紹介したいと思う。「地の塩として、人々の中に溶け込もうと努め、みんなと仲良くやっていく。しかし、ただ仲良くするだけでなく、それに流されずに、一方で「世の光」として主体性を持ち、自分の主義主張を明らかにしていく。その中で、リーダーシップを取れる人間として成長していくことではないだろうか。」このコメントを読みながら、イエスの語った言葉が現実生きる我々に向けてのメッセージにも聞こえてきた。

## 2) 思い煩うな（マタイ6章25-34節）

イエスは、人間が陥りやすい事柄の一つに「思い煩い」の問題があり、この「思い煩い」からの解放なしに本当の救いはないということを見抜いていた。「思い煩い」とは、人間が心深く抱えている心配ごと、懸念、悩みを意味し、それに囚われると人間、自分の心が引き裂かれ、混乱して、それでもなお自分の力で問題を処理しようと「思い」を「煩わせている」心の状態のことを言う。

こうした人間に対して、イエスは「空の鳥を見よ、野の花を見よ」と呼び掛ける。いったいイエスは、物言わぬ鳥や花から何を学べと言うのか。まず鳥や花の「何もできない」「無力な姿」を見て、自分たちも「無力で弱い存在である」ことを悟れと言っているようにも読み取れる。人間、成長の過程で、自分の「弱さ」「無力さ」を知ることは大切なことである。しかし単に自分の弱さを知るだけでは、前に向かって歩みだすことはできない。なぜなら人間、自分の弱さを知れば知るほど、劣等感に苛まれ、自暴自棄に陥ることが少なくない。やはり自らの「弱さ」と向き合い、格闘することも大切だが、自分が這い上がるために「上から」引き上げられる力も必要なのではないか。

ここで、イエスが「見よ、学べ」と言ったのは、無力な鳥や花の上に注がれる神の無限の愛、配慮を見て取れ、ということではないか。鳥や花にさえ愛を注ぐ神が、「神のかたち」に造られた人間に対して、「なおさら」「それ以上」良くしてくださらないはずがないではないか。だから、そのように常に最善をなしてくださる神に信頼を寄せて歩めと勧めているように思う。ここで一番言いたかったことは、我々「思い煩い」の生活を繰り返しているが、人間どんなにあがいても、自分ではどうすることもできないことが山ほどある。悩めば悩むほど、底なし沼に入り込んでしまうことは良くある。それでも、我々はあてにもならない自分にしがみ付いてしまっているのではないか。イエスは、すべてをご存知の神が我々に必要なものを用意して下さり、常に最善をなしてくださるのだから、神の導きと守りに信頼して前に向かって生きよ、と呼びかけておられる。神に信頼して歩む生活と思い煩いに明け暮れる生活

とは正反対の生き方で、あなたがたは「どちらを選ぶのか」と問いかけているように思えてならない。もし全能の神に信頼を寄せることができないならば、一体何に信頼を寄せて生きていくのか。あてにもならない自分にしがみつき続けるのだろうか。

### 3) 黄金律 (Golden Rule) 「何事でも人々からして欲しいと望むことは人々にもそのようにしなさい (マタイ福音書7:12)」 “Do for others what you want them to do for you.”

この「黄金律 (Golden Rule)」は社会倫理の最高峰 (掟の中の掟) で世界中の多くの人々に多大な影響を与えてきた。類似した「教え」は過去にもあった (例: ギリシャ哲学 (ストア派)、聖書外典、仏教の教典、孔子「論語」など…すべてが受動態) cf. イエスの教えの originality は、「黄金律」は能動態であるという点。おそらくこの黄金律に似た教えをどこかで聞いたことがあるかもしれない。「人の嫌がることは人にするな」という教え、多分、中国の孔子の儒教的教えが日本に伝来し、生活に根差した「教え」として定着。日本の文化は「受身」の文化;(根回し、人の出方、相手、回りの様子を見てから行動に出る、日本の武術: 剣道、合気道など) 儒教的教えの方がピンとくるのでは? イエスの教えが欧米で「黄金律」などと言っているのが理解できない。⇒愛の押し売り、おせっかいの奨励、「情けは人のためならず」etc. (人に親切にすれば、いつか見返りがくる。) ➡ 処世訓的教えぐらいにしか、考えられていない。

15年ほど前、工学部夜間の授業で、学生たちに「人からして欲しいと思うことは何か」と尋ねたら、しばらくの沈黙の後、一人の学生が「人間みな独りぼっちなので、人から愛されたい、認められたい、受け入れられたい、と思うのでは…」と答えた。これに対して、わたしは「もしそうならば、あなたの方から進んで、あの人、この人を、愛し、存在を認め、その人をありのままに受け入れなさい、とイエスは語りたかったのではないか」と答えた。➡ 「黄金律」は、イエスの能動的な愛に促されて、自分の方から出かけて行って、「隣人となる」という自発的、無条件な愛に生きることを教えているのではないか。【「隣人になる (ルカ10章)」 ➡ 関東学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」】にも通じる聖句であるといえよう。

以上

## 2023年度教職員修養会総括

大学宗教部長 原田 浩司

コロナ禍にあった2020年度からの3年間、中止またリモートで実施してきた修養会を4年ぶりに対面で、一泊二日の日程で再開することができた。本年度の修養会の特筆すべき点は、4年ぶりの再開を契機に各設置校の校長と宗教主任の先生方にも参加していただき、本学のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」について「ALL 学院」で再考する修養会となった。

講師は本学の中・高・大それぞれで学ばれ、文字通り「学院 BOY」と御自身で読んでおられた、関東学院の学院長（2023年度現在）の松田和憲先生にご担当いただいた。一日目午前には「キリスト教学校の存在意味—“Life Light Love”を生きる」と題して、東北学院を始め、長くキリスト教学校と関わってこられたご自分の半生を振り返りながらお話いただき、特に関東学院大学で「キリスト教学校」であるという自覚や建学の精神が危機に面した歴史と経験をお話いただいた。そうした自身の経験から、東北学院大学を再確認して見えてきたこと、特に「LIFE LIGHT LOVE」のスクールモットーの意義に注目し、かつて高校の宗教主任をされていた竹井一夫先生の言葉を紹介し、そこから「LIFE LIGHT LOVE」の聖書の由来としてヨハネによる福音書3章16—21節が挙げられることを紹介してくださった。松田先生はここを「ヨハネ福音書の中で、3つのキーワードを用いて、キリスト教の中心的なメッセージを告知している箇所」として、その聖書的な根拠や意義を、東北学院と関東学院での御自身の経験から解釈して、お話いただいた。また、講演では三校祖の一人にして、東北学院の中興の祖である D・シュネーダー先生による LIFE LIGHT LOVE に関する記事も紹介された。「第一は生命、…イエス・キリストによりて現れた生命である。心の生れ変わった結果の生命である。聖書にある「永遠の生命」である。この永遠の生命によりて世界が真に新たになるのである。…又（第二に）日本の将来に光明の必要がある。…イエス・キリストは「我は世の光明なり。我に従う者は暗き中を歩まず、生命の光明を得るなり」と言われた。…第三に将来の国民に取って欠くべからざるものは「愛」である。…今日愛の力は乏しく、現代文明の最大の欠陥は愛である。愛の欠乏のために人類は苦しんで居る。愛の精神に満ち溢れて、真心から奉仕を喜ぶ人物は、日本の将来のため何よりも必要である。…」(「生命、光明、愛」、『神と人』17号、大正12年)。

2023年度は改めて、東北学院全体のスクールモットーである LIFE LIGHT LOVE について、シュネーダー先生を始め、何人もの先人の言葉に触れることができた。それも本学の卒業生である松田先生が講師だったからこそ伺うことのできた講演だった。松田先生以外にも、夕方の全体協議において、瀬谷寛牧師（仙台東一番丁教会）から押川方義を通して見た教会と学校との関係についてお話を伺い、榴ヶ岡高校の西間木順教諭からは同校のキリスト教教育の実践例を、そして筆者が東北学院のキリスト教活動として宗教センターおよび TGCF の活動の実践例をお話しさせていただいた。こうして修養会を通し、本学に連なる教職員が東北学院をより深くかつ広く理解することができ、実りのある修養会となった。

## 2023年度 宗教協議会開会礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」

大学宗教部長 原田 浩司

### 聖書：ヤコブの手紙1章12～21節

試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格な者とされ、神を愛する者に約束された命の冠を受けるからです。誘惑に遭うとき、誰も「神から誘惑されている」と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、ご自分でも人を誘惑したりなさらないからです。人はそれぞれ、自分の欲望に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。そして、欲望がはらんで罪を産み、罪が熟して死を生みます。私の愛するきょうだいたち、思い違いをしてはなりません。あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の源である御父から下って来るのです。御父には、変化も天体の回転による陰もありません。御父は、御心のままに、真理の言葉によって私たちを生んでくださいました。それは、私たちを、いわば造られたものの初穂とするためです。

私の愛するきょうだいたち、よくわきまえておきなさい。人は誰でも、聞くに速く、語るに遅く、怒るに遅くあるべきです。人の怒りは神の義を実現しないからです。それゆえ、あらゆる汚れや甚だしい悪を捨て去り、植え付けられた御言葉を謙虚に受け入れなさい。御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。

### 説教：LIFE LIGHT LOVE

2023年度も、各設置校も卒園、卒業式の季節となり、教職員も定年や様々な事情で離職退職者の労をねぎらう季節でもあります。終わりを迎えようとするこの2023年度、特に大学では、キャンパス移転という一大事業を無事に成し遂げることができたことは、東北学院にとって非常に大きな出来事でした。このタイミングに合わせ、大学では講義や礼拝で使用する聖書の翻訳を新共同訳聖書から聖書協会共同訳に全て切り替えたことも大きな出来事の一つでした。さらに、この23年度、法人全体としてスクールモットーの「LIFE LIGHT LOVE」をこれまで以上に前面に強調した一年だったと言えます。五橋キャンパスの開業に併せて新たに作られた東北学院のブランドデザインはバッグやネクタイ・スカーフ、またピンバッジとなって、部長職や理事職、また各学校・各部署の代表責任者におかれましては、公の行事では身につける習慣ができつつあると言えます。

夏に大学で行われた教職員修養会も「LIFE LIGHT LOVE」についての理解を深め、共有する機会となり、初日の講演には、各設置校の校長・園長、宗教主任の先生にも参加していただきました。また研修会でも、クレドカードの理解と実践を広げるために、建学の精神と「LIFE LIGHT LOVE」を再確認しました。また、中・高でも、急遽私が代役で修養会で講師を担当しましたが、やはり「LIFE LIGHT LOVE」を中心に話をいたしました。そして今日、今御一

緒に歌いました讃美歌も歌詞に注目して改めて丁寧に読み解きますと、「命、光、愛」の言葉が登場する讃美歌です。そして、本日読みました聖書の言葉、ヤコブ書にも「命、光、愛」の言葉が揃って記されています。また、「試練」に言及することからはじまる今日の言葉は、昨年度の卒業式の記念礼拝のために選んだ聖書の箇所でもあります。私が接し、指導してきた今年度の4年生の卒業生は2020年度の入学生、つまり4月7日、当時の安倍晋三首相が首都圏を初め、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を発出し、4月16日にはその対象が全国に拡大され、コロナの影響で入学したての学生生活の出鼻が挫かれた学生たちでした。「試練を耐え忍ぶ人は幸いである」と語る今日の箇所。しかし、一つのペリコーペとしてのこの箇所全体で言及されているのが「いのちひかりあい」「LIFE LIGHT LOVE」の言葉です。時間の関係上、最後の17節の言葉に注目しますが「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の源である御父から下って来るのです」。父なる神を、光の源、その根源、由来であると語ります。新約聖書の別の箇所、ヨハネの手紙一1:5では「神は光である」と教え、同じ手紙の4:8で「神は愛だからです」と教えます。ヨハネ福音書14:6でイエス・キリストは「わたしは道であり、真理であり、いのちである」と弟子たちに教えておられます。改めて東北学院の「LIFE LIGHT LOVE」とは聖書が示す神と結びつき、神と切り離すことのできないもの、それが「LIFE LIGHT LOVE」。これを本学のスクールモットーとする東北学院もまた、神から切り離すことのできないキリスト教学校です。それが東北学院の個性であり、特性であり、東北地方にあって唯一無二の学院です。そのような東北学院が行ってきたキリスト教活動を、こうして年に一度、ALL 東北学院として、どのような教育活動を行ってきたのかを分かち合い、またこれからどのように行っていくのかを共有し、意見交換する場が宗教協議会です。東北学院が神と切り離すことのできない「LIFE LIGHT LOVE」を羅針盤に、建学の精神に基づき、園児、生徒、学生たちの人格の成長、完成を目指し、人間力の向上に資するキリスト教教育を、主がますます励まし力づけてくださるよう、共に祈りつつ、協議会を始めましょう。

### 〈祈祷〉

主なる神。23年度の東北学院のキリスト教教育の業を、祝福をもって守り導いてくださいましたことを感謝いたします。協議会には各設置校でキリスト教教育の使命を託された教職員が集っております。どうか、一人ひとりの働きを祝福し、これからも良き働き人として豊かにお用いください。少子化が進む今日の日本社会にあって、どうか東北学院の教育と研究の働きをお守りください。今日の協議会が主の御心に適うものとなりますように。主の名によって、アーメン。

(2023年度宗教協議会開会礼拝説教 2024年3月8日 「LIFE LIGHT LOVE」)

## 2023年度 東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」

大学宗教部長 原田 浩司

### 聖書：ヨハネによる福音書3章16～21節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者はすでに裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇を愛した。それが、もう裁きになっている。悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ない。しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神にあってなされたことが、明らかにされるためである。

### 説教：LIFE LIGHT LOVE

ここにお集まりの皆さん、ご卒業おめでとうございます。東北学院大学の学生として、皆さんと行う最後の礼拝となります。大学の宗教部長として、今日は東北学院大学を代表して、卒業される皆さんに聖書の言葉を贈ります。この卒業式で読みました聖書は、神がどれほどこの世を愛しているのかを伝えようとしている、ヨハネによる福音書3：16以下「神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。御子を信じる者が、一人も滅びないで永遠のいのちを得るためである。」という言葉から始まります。僅か1節に過ぎないこのヨハネによる福音書3章16節について、皆さんも講義で学んだ宗教改革者 M. ルターは「これは聖書の縮図である」と教えました。自分の最も大切な、愛する一人息子すら捧げられる程までにこの世を愛し、この世を生きる一人ひとりをお愛しておられる。この世界は神に愛された世界であり、この世界を生きる一人ひとりが、ここに集うあなたも神に愛されている。神はクリスチャンだけを愛しているわけではなく、クリスチャンではなくともあなたを愛している。ルターがここを「聖書の縮図」と呼んだのは、聖書は要するに何を伝えたいかということ、ここに集約されているということです。東北学院のスクールモットーの一つである LOVE をはじめ、今日の聖書は「LIFE LIGHT LOVE」すべてが言及される箇所ですので、今日の聖書の言葉を、是非これから続く人生の指針にさせていただきたいと思います。

さて、皆さんが過ごした今日までの4年間の学生生活を振り返りますと、本学に入学した2020年4月は緊急事態宣言が発出された月でした。学生だけでなく教員もキャンパスへの入室が禁じられ、全国的に不要不急の外出が制限されました。学生生活の第一歩から躓かされました。それから3年間はコロナの影響下にあり、しかもこの2年あまりは、ロシアによるウクライナ侵略があり、物価高騰があり、生成 AI が急加速度的に普及したり、今年の正月には能登半島地震が起きたり、この4年間、皆さんを取り巻く社会の環境は目まぐるしく

変化し、またその変化にある意味、振り回されてきました。改めて何が起きるか分からない時代です。絶えず変わりゆく時代の中を、皆さんはこれから社会人として、大人として、それぞれの人生を過ごしていかれますが、変わりゆく世界の中で、変わることはない人生の指針が、聖書にはあります。そして、東北学院大学を卒業される皆さんには、それが「LIFE LIGHT LOVE」の3つの言葉に集約されていることを覚えて、これからの人生を歩んでいただきたい。

人生、それは皆さん一人ひとりが生きる LIFE です。何のためにわたしは生きるのか、何が私らしく生きることか。人生は、コロナや地震のように、予測不可能な試練が襲います。皆さんは既にこの4年間でそれを経験しています。人生はそうした試練が襲い、闇が襲ってきますが、LIFE に続く言葉は「LIGHT (光)」です。きっと、東北学院で学んだことが、皆さんの人生を照らし出す光となるよう、大学礼拝をとおして聖書の言葉を毎日語り続けてきました。学生時代に分からなかった、気づけなかったことが、何年、何十年と人生を重ねていく中で気づく日がきつとくるでしょうから、ぜひ、皆さんが入学記念として受け取った聖書を大事にしていきたいと思います。

改めて今日の聖書には「LIFE LIGHT LOVE」が示されていますが、その三つの文字を皆さんはすぐに「ここと、こことここにある、ここにもある」と見つけることができるかもしれませんが、しかし、人生で直面する本当の「LIFE LIGHT LOVE」は決して文字として立ち現れるものではありません。ですから、スマホやパソコンの画面でググっても見つからない代物です。本当の意味での「LIFE LIGHT LOVE」は私たちの目には見えない、この世界の尊く大切な、人間が必要とする現実の力なのです。

最後に、「LIFE LIGHT LOVE」を締めくくる「LOVE」、「神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」聖書が語ろうとしていること、それは、神はあなたを愛している、ということです。愛するというのは、文字ではなく、全身全霊を捧げるその生き方の中にあることを、聖書をとおしてわたしたちは学びます。どうか、これから続く人生において、東北学院での学びが、そして「LIFE LIGHT LOVE」の聖書の教えが、これからは東北学院の同窓生として、皆さんを支える力となりますように。神の「命と光と愛」が皆さんの前途を祝福していただきますように。

### 〈祈祷〉

天の主なる神さま。ここに多くの卒業生たちが集い、厳かに卒業礼拝、卒業式を開催することができ感謝いたします。今日まで過ごしてきた日々、今日振り返る4年間は新型コロナウイルス感染症を始め、幾つもの試練がありました。ですが、一人ひとりがこうして学びを無事に終えることができましたことを感謝いたします。主なる神、どうか今日をもって東北学院大学を卒業する一人ひとりの人生の前途を祝福し、「LIFE LIGHT LOVE」のキリスト教の基本の精神をもって、人生において降り注ぐ試練や誘惑に打ち勝つ力をお与えください。東北学院

大学の真の創設者であるイエス・キリストの御名によって祈り願います。アーメン。

(2023年度東北学院大学卒業礼拝説教 2024年3月26日「LIFE LIGHT LOVE」)

2023年度

東北学院中学校・高等学校 宗教活動報告



## 2023年度 東北学院中学校・高等学校 宗教活動報告

東北学院中学校・高等学校 宗教主任 松井 浩樹

コロナウィルス5類移行を受けて、徐々に制限が緩和された。毎朝の礼拝時も入堂人数を隔週で約900人ずつとした。2学期終業式の際は、高校3年以外の1,600人を入れての式となり、かつての風景が蘇ったように思えた。共に聖書を学ぶ会のクリスマス会の祝会も飲食を復活することができ、久々に楽しいひと時となった。問題と感ずることは、コロナをうけて、讚美歌を歌わない時期を設けたりした余波もあるのだろうが、指導はしているものの、かつてのように全校で「歌う」ことが進んでいないことと言える。



賛美礼拝

2023年6月29日（木）

奉唱曲：カンタータ147番（J.S. バッハ作曲）より  
「主よ、人の望みの喜びよ」



キリスト教青年会 夏の修養会

2023年7月31日（月）

女川原子力PRセンターにて  
システムや安全性を学ぶ



クリスマスツリー点灯式

2023年12月1日（金）



クリスマス礼拝

2023年12月22日（金）

## 1. 宗教部

部 長 松井浩樹  
副部長 鈴木雅光  
教 諭 菊池 秀  
講 師 清野俊也

## 2. 礼 拝

8時30分から45分までの15分間、中学生と高校1年、高校2年と3年の二グループに分けて1週間交代で礼拝堂にて礼拝を捧げる（その他の学年は放送による礼拝）。テキストは、前期はルカ、後期はヨハネによる福音書の連続講解。

礼拝司会・説教者は基本的に月曜日、松井浩樹宗教主任、火曜日・岩上敦郎副校長、その他はキリスト者教員、月一度のペースで宗教センターチャプレン、野村信先生、聖書科非常勤講師としても勤務されている田中信矢先生（南光台キリスト教会牧師）、小林孝男先生（日本バプテスト仙台基督教会）半期に一度、西間木順先生（榴ヶ岡高等学校宗教主任）に担当していただいた。クリスマス月間には西間木順榴ヶ岡高校宗教主任、1月は大西晴樹学院長・学長をお招きし、新年礼拝としてささげた。

## 3. 授 業

各学年週一時間、必修科目として実施。キリスト教の基礎知識、価値観、歴史を学び、人格形成にも配慮し、展開することをねらいにしている。担当教員は以下の通りである。

学 年	担 当 者	主 な 内 容
中学1年	松井浩樹	キリスト教入門
中学2年	松本のぞみ	新約聖書入門
中学3年	田中信矢	旧約聖書入門
高校1年	松井浩樹・田中信矢	旧約聖書Ⅱ・3要文
高校2年	田中信矢・小林孝男	キリスト教の歴史Ⅰ
高校3年	松井浩樹	キリスト教の歴史Ⅱ

## 4. 早天祈祷会

毎週火曜日、朝7時50分から8時00分まで松井浩樹宗教主任のもと実施。朝の礼拝で歌う讃美歌を歌い、司会者が詩編を交読、短く奨励、参加者で祈祷・主の祈りをささげる。主に宗教部の教員が参加。平均出席4名。

## 5. キリスト教青年会

夏の修養会 7月31日(月)「女川原子力PRセンター」

(牡鹿郡女川町塚浜字前田123)

教員2名 生徒6名 参加

春の修養会 3月27日(水)

「南三陸町東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル」予定

教員2名 生徒3名 参加

## 6. 共に聖書を学ぶ会

年4回、保護者(卒業生も含む)有志と宗教部教員による聖書の学びである。

第253回 5月29日(月) 15時45分 本校会議室1 コリントの信徒への手紙I  
第3章6節～9節

「東北学院の創立」 松井浩樹宗教主任

第254回 9月4日(月) 15時45分 本校会議室1 マタイによる福音書  
第6章5節～15節

「主の祈り」 松井浩樹宗教主任

第255回 10月30日(月) 15時45分 本校会議室1

出エジプト記20:1-17 保護者30名参加

「十戒」 松井浩樹宗教主任

第256回 12月8日(金) 13時30分 司会 松井浩樹宗教主任

奨励 小林孝男講師 保護者30名参加

ルカによる福音書2:1-7

祝会 コロナ前の形態で実施

## 7. 行事

入学式 4月8日(土) 10時00分中学校 14時00分高等学校

寄宿舎入舎式 4月8日(土) 17時00分

1学期始業式 4月10日(月) 入堂と放送による

イースター礼拝 4月24日(月) 大門耕平先生(東北学院大学文学部総合人文学科)

創立記念礼拝 5月15日(月) シュネーダー先生説教テープ

墓前礼拝 5月15日(月) 中止

ペンテコステ礼拝 5月29日(月) 小林孝男先生(日本バプテスト仙台基督教会)

ギデオン協会聖書贈呈 6月9日(金) 仙台支部 篠原剛二先生

1学期終業式 9月28日(木) 入堂と放送による

2学期始業式 10月2日(月) 入堂と放送による

2 学期 始 業 式	10月2日 (月) 放送による
宗教改革記念礼拝	10月31日 (火) 説教 小林孝男先生 (本校聖書科非常勤講師)
ツリー点灯式	12月1日 (金) 13:30 礼拝堂にて 説教 松井宗教主任
クリスマス月間	12月4日 (月) ~12月22日 (金) 松井宗教主任 名越教諭 橋本教諭 高田教諭 西間木榴ヶ岡高校宗教主任 田中先生(南光台キリスト教会牧師・ 本校講師) 小林先生 (本校講師)
クリスマス礼拝	12月22日 (金) 説教 平賀真理子先生 (日本基督教団 岩沼教会 牧師) 中学生、高校1年、高校3年は入堂し、高校2年生は教室へユー チューブ配信
クリスマス献金	194,571円 (仙台キリスト教育児院 97,286円、小百合園に97,285円を送金)
高校3年卒業説教	1月16日 (火) 説教 松井浩樹先生 (東北学院中学校・高等学校宗教主任)
高等学校卒業式	3月1日 (金)
東日本大震災追悼礼拝	3月8日 (金) 説教 松井宗教主任
2 学期 終 業 式	3月18日 (月)
中 学 校 卒 業 式	3月19日 (火)

## 8. 第41回 教職員修養会

主 題	『聖書にきく』～東北学院のキリスト教
日 時	2023年8月18日 (金) 9時00分～12時10分
場 所	本校会議室1
講 師	原田浩司先生 (東北学院大学宗教部長 文学部総合人文学科教授)
参加者	22名

毎年1月の共通テストが終わった週に、高校3年生対象の「卒業説教」の時間が設定され、その感想文を書くことでキリスト教教育のまとめをして卒業を迎える事となっています。例年、ゲストをお迎えして、お話していただくのですが、今年度は男子校最後の学年であり、たまたま高校3年生全クラスの授業を私が受け持っていたこともあって、私が説教を担当しました。以下、その原稿です。

## 「犠牲と奉仕～最後の学院生」

東北学院中学校・高等学校 宗教研主任 松井 浩樹

卒業説教を迎えました。みなさんは6年間、3年間とそれぞれ、正規の学校行事である礼拝をささげ、正課必修の聖書の授業を受けてきました。つまり、この東北学院でキリスト教教育を受け続けてきたのです。共通テストも終わり、いよいよ卒業という言葉が具体的に変わったところで皆さんのこれまでの歩みを整理して、卒業式を迎えていただきたいと思い、少しお話をさせていただきます。

みなさんを見ていてまず感じることは、大部分のみなさんが「学校は楽しい」、と感じていると私は思っています。授業もそうですが、その前後の休み時間、楽しそうに話をする、じゃれ合っている、笑っている・・・そういう姿が印象的です。

その楽しい雰囲気こそが、実は何となくそうなのではありません。毎日の礼拝と聖書の授業で語り続けられた、スクールモットーであるライフ、ライト、ラブが、実はみなさん、しっかりと身につけているからこそ、今の楽しさがあるのです。特に最後のラブの部分、神様に対する愛、自己愛、隣人愛、つまり犠牲と奉仕の精神を共有しているからこそ起こっているのです。他の学校では、犠牲と奉仕に生きるなんて、一言も語られません。良くも悪くも自分中心、自己責任で歩まなければならないし、犠牲と奉仕という概念なんて、むしろ自分が損をする、自分が貶められる、足元をすくわれる生き方でしかないのです。

けれども我々東北学院は、創立以来、堂々と正面にライフ・ライト・ラブを掲げています。この犠牲と奉仕の精神は、実のところみなさんも経験済みです。この精神をみんなで共有し、誰かがどこかで、小さく発揮し続けているから、居心地が良い、生きやすい空間が常に展開をされているのです。つまり、犠牲と奉仕の精神に基づく、ゆるやかであるものの損得を超えた信頼関係が、皆さんの中に、すでにできているのです。具体的にはいつも誰かが配慮してくれています、いつも誰かが心配をしてくれているのです。そして誰かが自分の身代わりになってくれる、相談にのってくれる、助けてくれる、そういう集団が私達東北学院なのです。ところが、どうでしょう。みなさんがここを卒業をすると、先程も指摘したように「犠牲と奉仕の精神」を身につけている集団なんてありません。その意味で、はじめは他の社会集団に冷たさや、馴染みにくさを感じると思います。そこで、またいつか、ここにいる友人に出会うと、緩やかでも、かなり確かな信頼関係を思い起こし、大いに慰められ、励まされるでしょう。つまり、生涯にわたる友人がいる、それが今の、この高校3年生であるのです。

先程読んだ聖書に「起き上がり、床を担いで歩く」とありました。

みなさんにも、先程の「犠牲と奉仕の精神」のギャップを始めとして大いに悩み苦しみ「床に担がれて生きる生き方」があると思うのです。「床」でありますから、布団やベットにうずくまれないとならないような経験です。そのまま病気の苦しみもあるでしょう、精神的な追い込まれる、将来に対する不安、要するにここで言われる「床に担がれて生きる生き方」とは非常に不自由な生き方であるのです。

その一方で、「床に担がれる」ではなく「床を担いで生きる」生き方もあることを今日の聖書は語ります。床はあるけれども、その床に伏していないのです。その床を担いでいるのですから、自由に周りを見渡せます。自由に行動することも可能です。この世のありとあらゆるものに支配されない生き方です。そして「床を担ぐ」ですから、床はなくなることはなく、やはり確かに存在するのです。目の前の病や困難な出来事は確かにあるし、それはなくなりません。だからやはり、横になれる床は必要なのです。けれども、その床に担がれてしまうのではありません。その床をみなさんが担いで生きるのです。そこで皆さんはまず、自分を大切にしていきたいと思います。疲れたり、不安になったり、どうしようもなくなったら、その床に休むのです。大いに休む。復帰したらその床も一緒に再び担いで歩み始めるのです。自分を大事にしないと、疲れます。神様のことも隣人のことも、社会のことも目が届かなくなります。犠牲と奉仕なんて発想も吹っ飛びます。だからまず、卒業に向けた言葉として、まず自分を大切に、自分が健やかに生活できる環境づくりに勤しんで、犠牲と奉仕の精神に生きることこそが、みんなで楽しく生きることができる最善の道であるというスクールモットーでもあるし、聖書の価値観をこの世に証していただければと願うのです。

主イエスは語られます。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ」(17節)。実は、先程から私が言っている床を担がれる、担ぐと言っている床、こそがイエス・キリストであります。確かに目にははっきりとは見えません。けれども主イエスは「今もなお働いておられる」と断言をされるのであります。どんなに孤独で辛い経験をして、イエス・キリストはすべてご存知で、私達一人ひとりを、なんとかして最善の方向へと導こうとされるお方であります。私達たちにとって本当の安息を取り戻す、真の救い主であることを心に留める私達であるのです。

男子校、最後の高校3年生のみなさんです。自分の子供や孫に大いに伝えてください。あの東北学院で最後の男子校の学年だったと。そして犠牲と奉仕に生きることこそが、実はみんなが幸せになれる生き方だと。そのために最後、みなさん自分を大切に、イエス・キリストが今も働かれています。イエス・キリストという床を片手に担ぎ軽やかに安心をして、希望を大きくもって、卒業式を迎えて、羽ばたいてください。

#### 〈祈り〉

主イエス・キリストの父なる神様、卒業説教の時が与えられました。

男子校最後の学年がこの学び舎を巣立とうとしています。犠牲と奉仕に生きることこそが、みんなを幸せにする生き方で、その犠牲と奉仕に生きるためにこそ自分を大切にすることを心に留めさせてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2023年度

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教活動報告



## 2023年度 東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教活動報告

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順

今年度、8月に大学多賀城キャンパス図書館にありました聖句パネルを、昇降口ホールに移設し、生徒が日々この聖句パネルを目にすることができるようになりました。

礼拝は感染症への不安から、教室と礼拝堂とに分かれて捧げました。礼拝堂では週ごとに、学年ごと、コースごとに礼拝をささげました。クリスマス礼拝は4年振りに泉キャンパス礼拝堂で、全学年が集まりささげることができました。クリスマス礼拝は保護者にも公開いたしました。1月下旬から、全クラスが礼拝堂に集い礼拝をささげてきています。

教職員対象のキリスト教教育研修会では、東北学院大学の藤野雄大先生に『東北学院の教育の原点：宣教師の史料を通して』と題するご講演をしていただき、東北学院の歴史の一端を学ぶことが出来ました。

多くの方々の祈りと支えがあり、2023年度の活動を行うことができました。感謝です。これからも職員が心を合わせ、思いを一つに神から託されているキリスト教教育を行っていきたいと考えております。



イースター礼拝 2023年4月28日(金)  
説教：日本基督教団仙台ホサナ教会  
長尾厚志牧師  
『一緒に歩まれるお方』



ペンテコステ礼拝 2023年5月26日(金)  
説教：日本基督教団仙台東一番丁教会  
瀬谷 寛牧師  
『今生きて、共にいてくださる神』



クリスマス礼拝 2023年12月22日(金)  
説教：日本キリスト教会仙台黒松教会  
中家契介牧師  
『救いの星が見えますか？』



卒業礼拝 2024年1月19日(金)  
説教：日本基督教団登米教会  
佐々木栄悦牧師  
『エマオの道』

## 1. 宗教部 構成メンバー (敬称略)

部長 宗教主任 西間木 順

1年次 稲垣実悟 2学年 山口稔、南部悦子 3学年 松山彩子 (副部長)

## 2. 年間聖句 主題「共同体としての学校」

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

(ヨハネによる福音書 8章32節)

①礼拝する共同体 ②共に学ぶ共同体

**目標** キリスト教主義に基づき人格を陶冶する。

①隣人への愛の実践と感謝の心を育む

②聴く・祈る・歌う学校へ

## 3. 礼 拝 8時40分～8時55分 (15分)

～1月19日 礼拝堂及び礼拝堂からの配信のハイブリッド / 1月22日～全クラス礼拝堂

参加者 全生徒、全教職員

聖 書 マタイによる福音書の連続講解・コリントの信徒への手紙二 (抜粋)

※毎月最初の日には「年間聖句」

説教者(学 内) 西間木順宗教主任、後藤昌男教諭、最上巖教諭、稲垣実悟常勤講師

(宗教センター) 野村信チャプレン、佐藤由子主事

(牧 師) 中本純牧師 (日本基督教団仙台東六番丁教会)

加藤秀久牧師 (日本基督教団仙台南伝道所)

長手陽介伝道師 (日本基督教団泉高森教会)

奏 楽 最上巖教諭、西間木順宗教主任

## 4. 早天祈祷会 毎週水曜日 8時～8時15分

宗教主任の司会で、讃美歌を歌い、「詩編」を輪読し、参加者で祈祷をささげる。

## 5. 授 業

各学年週1時間、必修科目として実施

学年・コース	使用テキスト／内容	担 当 者
1学年全コース (9クラス)	『キリスト教とは何か』 『東北学院の歴史』	西間木順宗教主任
2学年全コース (8クラス)	『旧約聖書を読もう』	西間木順宗教主任 (3クラス) 加藤秀久伝道師 (5クラス)

学年・コース	使用テキスト／内容	担 当 者
3 学年全コース (8 クラス)	『旧約聖書を読もう』 『新約聖書を読もう』	西間木順宗教主任 (3 クラス) 中本純牧師 (5 クラス)
3 学年総進コース TG 聖書 (3 クラス)	『キリスト教の歴史』	西間木順宗教主任

※非常勤講師による説教動画視聴レポート年2回提出。教会レポート(年2回)を7月より再開。

## 6. 特別礼拝・行事

始 業 式	4月10日(月)	
第65回入学式	4月11日(火)	
イースター礼拝	4月28日(金)	説教者 長尾厚志牧師(日本基督教団仙台ホサナ教会) 説教題 『一緒に歩くお方』
創立記念週間	5月8日(月)～12日(金)	
創立記念式典	5月15日(月)	説教者 関川祐一郎牧師(日本基督教団石巻山城町教会) 説教題 『強く雄々しく』
創立記念墓前礼拝	5月15日(月)	説教者 林完赫牧師(日本基督教団仙台長町教会) 説教題 『新しい命に与って生きる』
ペンテコステ礼拝	5月26日(金)	説教者 瀬谷寛牧師(日本基督教団仙台東一番丁教会) 説教題 『今生きて、共にいてくださる神』
伝 道 週 間	7月13日(木)～20日(木)	説教者 大西晴樹先生(東北学院院長・東北学院大学学長) 松井浩樹先生(東北学院中学校・高等学校宗教主任) 原田浩司先生(東北学院大学宗教部長) 野村信先生(東北学院宗教センターチャプレン) 伊藤公一氏(日本国際ギデオン協会)
閉 講 礼 拝	7月21日(金)	
キリスト教教育研修会	8月24日(木) 13時30分～15時30分	講 師 藤野雄大先生(東北学院大学文学部総合人文学科教授講師) 講演題 『東北学院の教育の原点：宣教師の史料を通して』
開 講 礼 拝	8月25日(金)	

前期終業式	9月29日(金)
後期始業式	10月2日(月)
宗教改革記念日礼拝	10月31日(火)
	説教者 出村みや子先生(東北学院大学文学部総合人文学科)
	説教 『福音に従い自由に生きよう』
	聖書 コリントの信徒への手紙一 9章19-23節
クリスマスイルミネーション献試	12月4日(月)
クリスマス週間	12月15日(金)～21日(木)
	説教者
	15日 松井浩樹先生(東北学院中学校・高等学校宗教主任)
	18日 大西晴樹先生(東北学院院長・東北学院大学学長)
	19日 原田浩司先生(東北学院大学宗教部長)
	20日 大久保直樹先生(宮城学院中学校・高等学校宗教主事)
	21日 西間木順宗教主任
クリスマス礼拝	12月22日(金) 泉キャンパス礼拝堂
	説教者 中家契介牧師(日本キリスト教会仙台黒松教会)
	説教題 『救いの星が見えますか?』
	聖書 マタイによる福音書2章1-12節
開講礼拝	1月9日(火)
卒業礼拝	1月19日(金) 4校時目 対象 3学年
	説教者 佐々木栄悦牧師(日本基督教団登米教会)
	説教題 『エマオの道』
	聖書 ルカによる福音書24章28-35節
第63回卒業式	3月1日(金) 泉キャンパス礼拝堂
311東日本大震災を覚えて	3月11日(月) 特別プログラム
終業式	3月22日(金)

#### 7. キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区 新任教師研修会

日時 9月4日(月) 会場 山形学院高等学校  
参加者 一戸柚舞教諭、西間木順宗教主任

#### 8. キリスト教学校教育同盟中高研究集会(兼東北北海道地区教育研究集会中高部会)

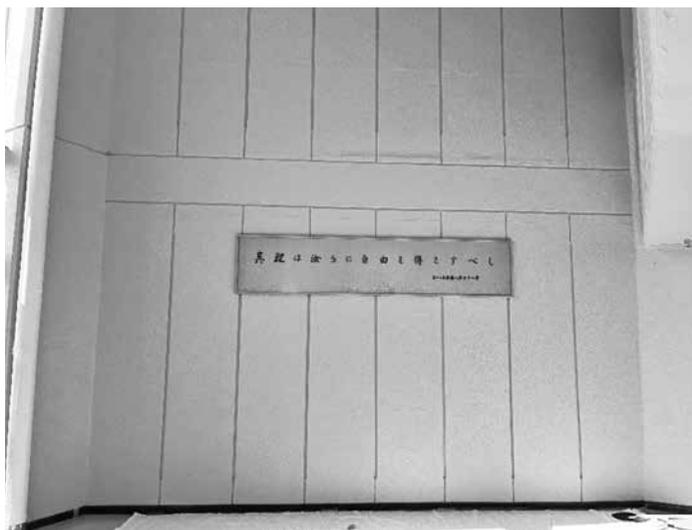
10月26日(木)～27日(金) 会場 北星学園女子中学高等学校  
参加者 佐藤周副校長(発表)、西間木順宗教主任

## 9. ボランティア

- 1) 生徒会 ノーマア注射～希望の本プロジェクト／エコキャップ回収  
能登半島地震義援金呼びかけ（63,530円）
- 2) 生徒有志 ありのまま舎帯封糊付け作業

## 10. その他

聖句ボード「真理は汝らに自由を得さすべし」を昇降口ホールに設置（大学多賀城キャンパスより）



## 年間聖句「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」

(ヨハネによる福音書 8章32節)

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順

今日から、全学年が共に礼拝を捧げます。今年度はまず、学年毎、礼拝堂で礼拝を捧げます。礼拝堂に入らないときは教室で、礼拝堂からの配信を見ながら、礼拝を捧げます。同じ時に、神の前にひれ伏し、心を一つに、思いを一つにして、一つの礼拝をささげましょう。

さて、今年度の年間聖句は、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」です。3月まで設置されていました東北学院大学多賀城キャンパスの図書館にこの聖句が掲げられていました。

皆さんは「自由」をどのように理解していますか。考えてみましょう。逆に、「自由ではない社会」はどのような社会でしょうか？ 考えてみてください。

聖書は、私たちに「自由に生きよ」と教えています。聖書が教える自由とは、「自分の意思で、自分の生き方を、選択すること」です。聖書に書かれてある、神の言葉を用いて、「自分の心と向き合う」、「自分の心と対話する」、そして「自分は、このように生きていこう」と決断し、行動していくのです。ですから、自由には責任が伴うのです。うまくいかなかったからといって、他者のせいにすることはできないのです。自由を行使していくことは、簡単なことではないでしょう。

自由を行使していくときに、気を付けなければならないことがあります。私たちは、どうしても自分中心に考えたり、行動したりしてしまうからです。皆さんが自分中心に行動していくと、どういうクラスになるのでしょうか。どういう学校になるのでしょうか。無秩序なクラス、あるいは、無秩序な学校になってしまうかもしれません。

私たちは、誰も一人で生きているわけではありません。他者と共に生きていくのです。私が高校三年生の政治経済の授業で、「2人以上の人が一緒に生きていくと、そこにおのずとルールができる」ということを教えていただきました。

つまり、自由を行使していく上で、気を付けなければならないことは、ルールを守るということです。

聖書の中で教えられているルールは、「隣人を自分のように愛しなさい」と、「互いに愛し合いなさい」です。言い換えれば「神から与えられている愛を用いて、他者と共により良く生きること」なのです。このルールの中で自由を最大限に行使していくのです。時には、自分の自由を他者のために行使しなければならないこともあるでしょう。

皆さんは今、大人への階段を上っているところです。まだまだ、自分中心の考えで自由を行使してしまいます。しかしどうぞ、皆さん、クラス全体を見る目を養ってください。クラスの仲間の良いところをたくさん見つけてください。そして、そのクラスの仲間と、より良く生きていくために、どうすればいいのか、考えてください。そうすることで、聖書が教える、「自由」を行使していくことが出来るでしょう。そして、みんなが、このクラスでよかった、この学校に来てよかったと思えるようになるのでしょうか。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」。この聖句を、心に刻み、今年度の学びを共にしてまいりましょう。 (2023年4月12日 礼拝説教より)

2023年度

東北学院幼稚園 宗教活動報告



## 2023年度 東北学院幼稚園 宗教活動報告

東北学院幼稚園 園長 島内 久美子

体制を整えて2年目となり、宗教センターチャプレンと主事が月に2回来園し礼拝で説教を行ったことで園児・教員のキリスト教への理解が深まった。特別伝道礼拝では、体験をとおしてキリスト教に触れる機会となった。色とりどりのイースターエッグを囲みながらのイースター礼拝は、入園したばかりの園児もイースターエッグをとおして復活の喜びを感じ、花の日礼拝ではお世話になっている方にお花を届けに行くことで奉仕する心が育まれた。また、感謝祭礼拝ではたくさんのお恵みをいただいていることに気づき感謝の祈りをささげることができ、クリスマスには神さまとイエス様の愛を知り、聖誕劇をささげ愛を分かち合う時に愛が実現される喜びを知ることにつながった。

毎日の祈りによって子どもたちが神さまの元に導かれ、健やかに成長していることから、今後も礼拝をとおして園児の心の成長を支えていきたい。



土樋キャンパス訪問  
2023年5月18日（木）  
理事長・院長先生にお花をプレゼント



花の日礼拝  
2023年6月9日（金）



感謝祭礼拝  
2023年11月17日（金）



クリスマス礼拝  
2023年12月15日（金）

### 1. 年間主題

ともにつむぎだす ～希望の中で～

### 2. 年主題聖句

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、  
平和の福音を告げ知らせました。 〈エフェソの信徒への手紙 2章17節〉

### 3. 礼 拝

クラス礼拝 月曜日～木曜日 10時10分～10時20分  
合同礼拝 金曜日 10時20分～10時50分

### 4. 特別礼拝

日 時	場 所	説教・祈祷者	内 容
4月10日(月)	幼稚園ホール	宗教センターチャプレン 野村 信先生	2023年度始業礼拝
4月11日(火)	幼稚園ホール	宗教センターチャプレン 野村 信先生	入園式
4月14日(金)	幼稚園ホール	宗教センターチャプレン 野村 信先生	イースター礼拝
5月18日(木)	ラーハウザー 記念礼拝堂	院長 大西晴樹先生	土樋訪問
6月9日(金)	幼稚園	宗教センターチャプレン 野村 信先生	花の日礼拝
7月20日(木) 15時20分	利府森郷礼拝堂	園長	サマーデイキャンプ
11月17日(金)	幼稚園ホール	院長 大西晴樹先生	感謝祭礼拝
12月15日(金)	幼稚園ホール	午前の部 宗教センター主事 佐藤由子先生 午後の部 宗教センターチャプレン 野村 信先生	クリスマス
3月11日(月)	幼稚園ホール	園長	東日本大震災追悼礼拝
3月15日(金)	幼稚園ホール	宗教センターチャプレン 野村 信先生	卒園式
3月19日(火)	オープン教室	教諭	2023年度修了礼拝

## 5. 園児対象

- (1) 聖書物語絵本をとおしてのキリスト教教育
- (2) 聖句カード帳による聖書理解
- (3) 聖書箇所暗唱
- (4) クリスマス献金袋作り

## 6. 保護者対象

- (1) 月刊新聞「ともに育つ」配布（キリスト教保育連盟発行）
- (2) クリスマス準備会  
日時：11月30日（木） 10時00分  
場所：幼稚園ホール  
内容：クリスマス講話 宗教センターチャプレン 野村 信先生
- (3) アドベント礼拝出席

## 7. クリスマスコンサート

- 日時：12月2日（土） 10時20分  
場所：五橋キャンパス押川記念ホール  
内容：【第一部】園児の歌によるクリスマス讃美  
【第二部】ピアノとマリンバによるコンサート

## 8. 教師対象

- (1) 朝拝：8時25分～8時30分
- (2) 月刊誌『キリスト教保育』輪読
- (3) 第1回祈祷会 6月20日（火）15時30分～16時30分 参加者13名  
第2回祈祷会 11月14日（火）15時10分～16時10分 参加者12名

## 9. 研修会：キリスト教保育連盟

日 時	場 所	内 容	参加者	主 催
6月8日（木） 11時～15時	仙台市長町	2023年度総会・園長設置者研修会 「人口減少社会におけるキリスト教 保育施設の可能性」 講師：岡村 宣氏 認定こども園野のはな園長	1名	東北 部会
7月27日（木）	オンデマンド	第94回夏期講習会 「ロボットと人間の未来 ～人が育つということ～」 講師：古田貴之氏 千葉工業大学未来ロボットセンター所長	1名	連盟

日 時	場 所	内 容	参加者	主 催
7月31日(月) 13時30分～ 15時30分	福島県	第2回研修会 「マスク着用と子どもの育ち」 講師：岩倉 拓氏 聖マリアンナ医科大学講師	3名	東北 部会
11月11日(土)	山形県	第3回研修会 主題：愛された自分と出会う時 講師：西内みなみ氏 桜の聖母短期大学学長	1名	東北 部会
11月13日(月)	オンデマンド	設置者・園長・主任研修 主題：キリスト教保育をつなぐ 講師：大豆生田啓友氏 玉川大学教育学部教授	1名	連盟
2月24日(土)	オンデマンド	保育者協議会 主題：「その子らしく生きる」を支える 講師：若月芳浩氏 玉川大学教育学部教授	1名	連盟

## 幼稚園クリスマスコンサート

東北学院幼稚園 園長 島内 久美子

日時：2023年12月2日（土） 10時20分

場所：五橋キャンパス押川記念ホール

対象：園児・家族・幼稚園教職員

例年幼稚園ではクリスマスコンサートを実施していたが、今年度は五橋キャンパスが開学したことにより、五橋キャンパス押川記念ホールで開催することとした。幼稚園がホールを使用するにあたって、距離的なことはもちろん様々な課題や難点があったものの、関係各所のご支援により無事に実施することができた。以前実施していた時は、演者によるコンサートであったが、今回は5歳児によるクリスマス賛美もプログラムに入れた2部構成とした。

内容を決めるにあたり、幼い園児が一度も立ったことのない大きな会場のステージで緊張のあまり委縮してしまうことも懸念されたことから、歌であれば可能ではないかとなり、讃美歌「もろびとこぞりて」と他1曲をうたうことに決め練習が始まった。しかし、練習が始まると似たような言葉と理解が及ばない歌詞、歌いだしの難しさに覚えるまで時間がかかり、自信が持てず声も小さくなり、何より表情に硬さが見られ賛美どころではない園児の様子が見られた。また、この時期園児は幼稚園のクリスマス礼拝でうたう讃美歌（こどもさんびか）や、聖誕劇でうたう歌を何曲も覚えなくてはならず、過度な負担を避けるため「もろびとこぞりて」を4番までうたわず2番までにする案も教員の間で出された。しかし、少しずつ覚えていく園児の様子とこれまでの成長から、最後まで子ども達の力を信じ支えていこうとなり、前日まで練習に励んだ。

当日は多くの保護者と在園児が見守る中、自信に満ちた表情で4番までしっかりとうたい、他1曲も元気にうたうことができた。参加した保護者からは「こんな大きなホールでうたう我が子を見て涙が出ました。」と感激する声、「来年は孫がステージでうたうのを楽しみにしています。」との4歳児の祖父母の声もあり、神様さまのお導きと喜びにあふれたクリスマスコンサートとなったことに安堵を覚えた。

その後行われた幼稚園クリスマス礼拝では、例年「こどもさんびか」をうたっていたが、今年は「もろびとこぞりて」を賛美した。クリスマスにこの讃美歌を共にうたうことが何より嬉しく、また、その姿に、この讃美歌が子ども達の心の中に残り、大人になりキリスト教から離れても、この曲を聴くたびに神さまに祈った幼い頃の心を思い出してほしいと願った。



学校法人東北学院  
「宗教活動報告書」

第5号（2023年度）

発行日 2024年6月24日

発行責任者 宗教センター所長 大西 晴樹

編集責任者 宗教センター主任 原田 浩司

出版社 株式会社佐々木印刷所

問い合わせ先 東北学院宗教センター

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

電話 022-354-8310

